

デジタル・ミキサー

Ui Series

取扱説明書

お買い上げいただき、誠にありがとうございます。

安全に正しくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。 この取扱説明書は、お読みになった後も、いつでも見られるところに保管してください。



安全上のご注意

取扱説明書には、お使いになる方や他の方への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。以下の注意事項をよくお読みの上、正しくお使いください。

注意事項は危険や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った扱いをすると生じることが想定される内容を次の定義のように「警告」「注意」の二つに区分しています。



警告

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。



注意

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される内容です。



警告

- 必ずAC100V(50/60Hz)の電源で使用してください。異なる電源で使用すると火災や感電の原因となります。
- 必ず専用の電源アダプターを使用してください。これ以外の物を使用する と火災の原因となります。また、電源アダプターは他の機器には使用しない でください。
- 電源アダプターのコードの上に重い物を乗せたり、熱器具に近づけたり、無理に引っ張ったりしないでください。コードが破損して火災や感電の原因となります。電源アダプターのコードが傷んだら、ただちに使用を中止して販売店に交換をご依頼ください。
- 水に入れたり、濡らさないでください。また、水が入った容器や金属片などを、機器の上に置かないでください。火災や感電の原因となります。
- 煙が出る、異臭がする、水や異物が入った、破損した等の異常がある時は、ただちに電源アダプターをコンセントから抜き、修理を依頼してください。異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。
- 分解や改造は行わないでください。お客様が保守できる部品は内部にはありません。分解や改造は保証期間内でも保証の対象外となるばかりでなく、 火災や感電の原因となります。
- 長時間使用しない時や落雷の恐れがある時は、電源アダプターをコンセントから抜いてください。火災や感電の原因となります。また、雷が鳴り出したら金属部分や電源アダプターには触れないでください。



注意

- 斜面や不安定な場所に設置しないでください。落下すると、けがや器物破損の原因となります。
- Ui16をラックに設置する際は、全てのねじをしっかりと固定してください。 落下によるけがや故障の原因となります。
- 以下のような場所に設置しないでください。火災や故障の原因となります。
 - ・直射日光の当たる場所
 - ・温度の特に高い場所、または低い場所
 - ・湿気の多い場所
 - ・ほこりの多い場所
 - ・振動の多い場所
 - ・塩害や腐食性ガスが発生する場所
- 機器の移動は、電源アダプターや他の機器との接続ケーブルを全て外した上で行ってください。けがや故障、ケーブル破損の原因となります。
- 配線は、全ての機器をコンセントから抜き、取扱説明書に従って正しく行ってください。コンセントに差し込んだまま配線すると、感電する恐れがあります。また、誤配線によるショート等は火災の原因となります。
- 濡れた手で、電源アダプターや他の機器との接続ケーブルの抜き差しをしないでください。感電の原因となります。
- 電源を入れたり切ったりする前に、各機器の音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴覚障害や機器の破損の原因となります。
- 大きな音量に連続してさらされると、聴覚障害の原因となります。音量の設定は慎重に行ってください。



電波に関するご注意

- 本機と端末が通信可能な距離は約40mです。2.4GHz帯の周波数を使用しているため、「本機と端末の間に障害物がある場合」「本機や端末を 直接地面や床に置いた場合」「雨天時の屋外で使用した場合」「無線LANや電子レンジ等、電波を発信する機器が使用されている場所で使用した 場合」では、通信距離が短くなったり操作ができなくなる可能性があります。上手く動作しない場合は、障害物を取り除くか、使用場所を変更してく ださい。
- 本機は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局の無線設備として、技術基準適合証明を受けています。従って、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。ただし、以下の事項を行うと法律で罰せられることがあります。
 - ・本機を分解/改造すること。
 - ・本機に貼ってある証明番号が印刷されたラベルをはがすこと。
- 本機が使用している2.4GHz帯は他の無線機器でも使用している場合があります。他の無線機器との電波干渉を防止するために、以下の事項に 注意してご使用ください。

本機の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局(以下「他の無線局」)が運用されています。

- 1.本機を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
- 2.万一、本機と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合は、速やかに本機の使用場所を変えるか、運用を停止してください。
- 3.不明な点、その他お困りのことが起きたときは、以下の連絡先へお問い合わせください。

ヒビノ株式会社 ヒビノプロオーディオセールス Div.

カスタマーサポート

TEL:03-5783-3110

【現品表示】



現品表示は以下のことを表しています。

この無線機器の使用周波数は2.4GHz帯で、変調方式はDS-SS、与干渉距離は40mです。また、2,412MHz ~2,472MHzを使用し、移動体識別装置の帯域内での周波数の変更が可能です。

※本機には現品表示が印刷されたシールが同梱されています。現品表示のシールは受信機と送信機の目立つところに貼ってください。



目次

安全上のご注意・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P.2
電波に関するご注意・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P.3
目次	P.4
主な特徴・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P.5
梱包内容の確認・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P.5
本体の各部の名称と機能 前面パネル	P.6
右側面パネル ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P.8 P.9
セットアップ 外部機器を接続する	P.10
電源を ON にする ···································	
操作画面の概要 タブレット /PC 版の操作画面 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P.13
操作画面の各ページの詳細	
メーターページの各部の名称と機能 MIX ページの各部の名称と機能	P.16 P.19
	P.21
EDIT ページの各部の名称と機能 ·····	P.22
	P.28
FX SENDS ページの各部の名称と機能 ····································	P.30
	P.33
AFS ² ハウリング・サプレッサー	
AFS ² 設定画面の各部の名称と機能 固定フィルターのセットアップ手順	
Lexicon PRO エフェクト・プロセッサー	P.45
MORE ME	P.49
ファームウェアのアップデート	P.50
工場出荷時の状態へのリセット	P.50
仕様	P.51



主な特徴

Ui Seriesは、市販の端末を使用してワイヤレスで簡単に操作できるデジタル・ミキサーです。高品位な信号処理機能と多彩な入出力端子を備え、小規模な固定設備や仮設PAであれば1台で自在にコントロールできます。8マイク/ライン入力のUi12と、12マイク/ライン入力のUi16を用意しました。

- ・タブレットやスマートフォン、PCなどをWi-Fiで直接接続して、ほぼ全ての機能をワイヤレスで操作可能。どこからでも自在にコントロールできるので、機器の設置場所に制約がある場合や機器を目立たせたくないシーンに最適です。
- ・端末は最大10台まで接続可能で、1台のUiを異なる場所から同時に操作できるのはもちろん、複数の端末で1つの入出力の異なる情報を同時に表示させることもできます。
- ・本体からコントロール機能を除外したことで、極めてコンパクトなボディーを実現。Ui16はラックマウントもできます。
- ・Wi-Fiアクセスポイント機能を内蔵し、別途ネットワーク機器を用意することなく端末と直接ワイヤレスで接続可能。接続の設定も、電源を入れて端末からUiのネットワークを選択するだけで簡単です。有線LANや外部ネットワーク機器経由で接続することも可能です。
- ・操作画面は、接続した端末のwebブラウザーで指定のURLを開くだけで表示されます。専用のアプリやソフトは不要です。主要なOSに対応しているので、どの端末からでも同じデザインの画面でコントロールできます。
- ・操作画面はSoundcraftデジタル・ミキサーの優れた操作性を踏襲し、まるでアナログ・ミキサーのような直感的なコントロールを実現。2種類の 画面が用意されており、端末のサイズによって選択可能です。
- ・全ての入力に、定評あるdbx製のハイパスフィルター、パラメトリックEQ、コンプレッサー、ゲートを装備。マイク/ライン入力はディエッサーも備えています。出力に搭載された、グラフィックEQ、コンプレッサー、ゲート、ハウリング・サプレッサーもdbx製です。
- ・世界的に評価の高いリバーブを初め、ディレイ、コーラスなど、3または4基の高品位Lexicon PRO製工フェクト・プロセッサーを搭載しています。
- ・ファンタム電源の供給や位相の反転を個別に切り替え可能なマイク/ライン入力を8または12系統装備。そのうち2系統はハイインピーダンスに対応しギターやベースを直接接続できます。DigiTechのアンプ・シミュレーターも利用できます。
- ・USBメモリーを使って、音声ファイルの再生やMIX L/Rバスの信号の録音が可能です。
- ・MIX L/R出力の他、2または4系統のAUX出力を搭載。AUX出力に切り替えできる2系統のヘッドホン端子も備えています。

梱包内容の確認

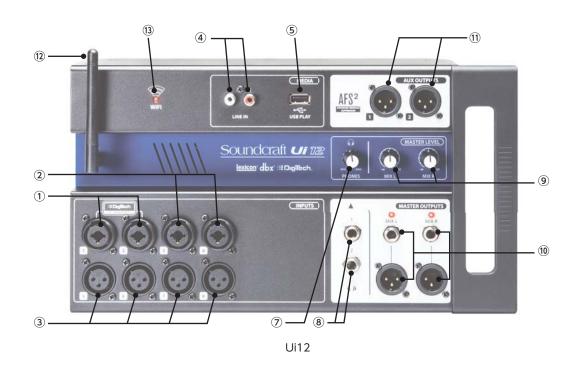
パッケージに次の物が入っていることを確認してください。

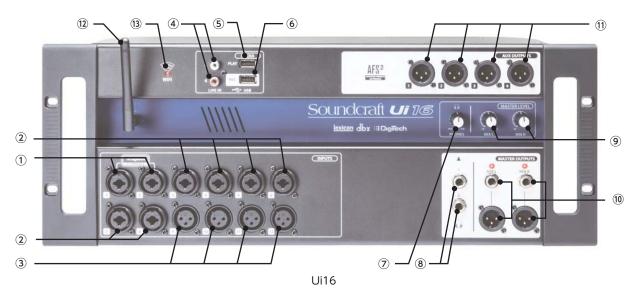
- 本体
- 電源アダプター(アダプター、コード)
- 和文取扱説明書
- 保証書



本体の各部の名称と機能

前





① マイク/ライン入力端子(複合型、ハイ・インピーダンス対応)

マイクロホンや楽器などの音声信号の入力機器を接続するための、バランス仕様XLR 3ピンとバランス仕様標準フォーンに対応した複合型入力端子です。マイクレベルとラインレベル、どちらの信号も入力できます。48Vファンタム電源の供給や位相の反転も可能です。ハイ・インピーダンス接続にも対応しており、エレクトリック・ギター/ベースなどのハイ・インピーダンス出力の楽器も直接接続できます。また、この端子はDigiTechのアンプ・シミュレーターも利用可能です。入力信号は操作画面のCH1/2でコントロールできます。

⚠注意

・アンバランスの信号や、電源内蔵のコンデンサー型マイクロホン、ダイレクト・ボックスをマイク/ライン入力端子に接続する場合は、必ずファンタム電源をOFFにしてください。接続した機器の故障の原因となります。



② マイク/ライン入力端子(複合型)

マイクロホンや楽器などの音声信号の入力機器を接続するための、バランス仕様XLR 3ピンとバランス仕様標準フォーンに対応した複合型入 力端子です。マイクレベルとラインレベル、どちらの信号も入力できます。48Vファンタム電源の供給や位相の反転も可能です。入力信号は、操 作画面のUi12はCH3/4、Ui16はCH3~8でコントロールできます。

⚠注意 ・アンバランスの信号や、電源内蔵のコンデンサー型マイクロホン、ダイレクト・ボックスをマイク/ライン入力端子に接続する場合は、必ずファン タム電源をOFFにしてください。接続した機器の故障の原因となります。

③ マイク/ライン入力端子(XLR)

マイクロホンや楽器などの音声信号の入力機器を接続するための、バランス仕様XLR 3ピンの入力端子です。マイクレベルとラインレベル、ど ちらの信号も入力できます。48Vファンタム電源の供給や位相の反転も可能です。入力信号は、操作画面のUi12はCH5~8、Ui16はCH9~ 12でコントロールできます。

↑ アンバランスの信号や、電源内蔵のコンデンサー型マイクロホン、ダイレクト・ボックスをマイク/ライン入力端子に接続する場合は、必ずファン タム電源をOFFにしてください。接続した機器の故障の原因となります。

④ LINE IN L/R入力端子

オーディオ再生機器などを接続するための、アンバランス仕様RCAの入力端子です。ラインレベルの信号をLとRのステレオで入力します。入 力信号は操作画面のLINE IN L/Rでコントロールできます。

⑤ USB PLAY端子

USBメモリーを接続するための、タイプAのUSB端子です。USBメモリーに保存された、MP3、AAC、WAV、OGG、AIFF、FLAC形式の音声 ファイルを再生したり、MIX L/Rバスの信号をWAV形式の音声ファイルとしてUSBメモリーに録音できます(USB PLAY端子での録音は Uil2のみ)。入力信号は操作画面のPLAYER L/Rでコントロールできます。このUSB端子は、各種設定データのインポート/エクスポートや ファームウェアのアップデートにも使用できます。

⑥ USB REC端子(Ui16のみ)

USBメモリーを接続するための、タイプAのUSB端子です。MIX L/Rバスの信号をWAV形式の音声ファイルとしてUSBメモリーに録音でき ます。このUSB端子は、各種設定データのインポート/エクスポートやファームウェアのアップデートにも使用できます。

⑦ PHONESつまみ

ヘッドホン出力端子から出力される信号のレベルを調整するつまみです。

⑧ ヘッドホン出力端子

ヘッドホンを接続するための、標準フォーンの出力端子です。通常はMIX L/R MASTER出力端子と同じ信号が出力されますが、各入出力の SOLOボタン選択時はソロバスの信号が出力されます。1番と2番の端子は並列に接続されており、出力される信号は同じです。また、ヘッドホ ン出力はAUX出力に切り替えることが可能で、切り替えた場合、Ui12はAUX3/4、Ui16はAUX5/6の信号が出力されます。

⑨ MIX L/R MASTERつまみ

MIX L/R MASTER出力端子から出力される信号のレベルを調整するつまみです。

⑩ MIX L/R MASTER出力端子

パワーアンプやパワード・スピーカーを接続するための、バランス仕様XLR 3ピンとバランス仕様標準フォーンの出力端子です。操作画面の MIX L/R MASTERフェーダーで制御され、MIX L/R MASTERつまみ通過後の信号を出力します。XLRと標準フォーンは並列に接続されて おり、出力される信号は同じです。この端子から信号が出力されているときは、端子の上にあるLEDが緑色に点灯します。

① AUX出力端子

パワーアンプやパワード・スピーカーを接続するための、バランス仕様XLR 3ピンの出力端子です。操作画面のAUX MASTERフェーダー通 過後の信号を出力します。

[®] Wi-Fiアンテナ

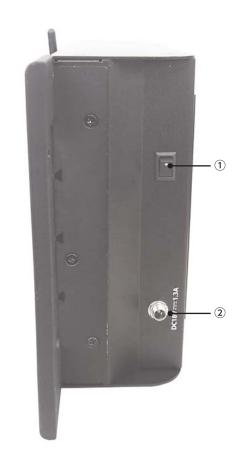
本機のWi-Fiアクセスポイント(ホットスポット)機能を使用して端末とワイヤレスで接続する際に、データの送受信精度を高めるためのアンテナ です。アンテナは端子に確実に接続して垂直に立ててください。

13 WiFi LED

Wi-Fiアクセスポイントの動作状況を示すLEDです。正常に動作している場合は青色に点灯します。動作の異常時、起動時、フルリセット実行時 には点滅します。



右側面パネル



① 電源スイッチ

電源のON/OFFスイッチです。

② 電源端子

付属の電源アダプターを接続するための端子です。本機の電源端子と電源アダプターは、ねじ止め式のロック機構を備えており、不意の端子外れを防止できます。下の図のように付属の電源アダプターの端子を電源端子に差し込み(①)、外れ止めリングを時計回りに回すと端子がロックされます(②)。外す時はリングを反時計回りに回してください。





左側面パネル





Ui12

① RESETボタン

本機を工場出荷時の状態にリセットするためのボタンです。リセットには、パスワードとネットワーク設定を工場出荷時の状態へ戻す「ネットワーキングリセット」と、全ての設定を工場出荷時状態へ戻す「フルリセット」の2種類のリセットがあります。詳細はP.50の「工場出荷時の状態へのリセット」を参照してください。

備考・誤操作防止のため、RESETボタンは奥まった場所に取り付けられています。先の細いドライバーなどで押してください。

② FOOTSWITCH端子

他社製のフットスイッチを接続するための端子です。フットスイッチを接続すれば、様々な機能を足元で操作できます。操作する機能の設定は設定ページのSETTINGSタブにあるPEDAL FUNCTION(P.41参照)で行います。標準フォーンプラグを備えたアンラッチ型のフットスイッチに対応しています。

③ USB端子

USBメモリーを接続するための、タイプAのUSB端子です。USBメモリーを使用して、各種設定データのインポート/エクスポートやファームウェアのアップデートを行います。このUSB端子は、音声ファイルの再生や録音にも使用できます。

④ HDMI端子(Ui16のみ)

現在使用できません。

⑤ ETHERNET端子

有線LANや外部ネットワーク機器を経由して端末を接続するための、RJ45のイーサネット端子です。この端子を使えば、電波が込み合っていて本機のWi-Fiアクセスポイント機能を使用した接続が不安定な場合でも、安心して使用できます。



セットアップ

ここでは、本機のセットアップの方法について説明します。大きな流れは以下の通りです。



外部機器を接続する

入力端子にマイクロホンやワイヤレスシステムの受信機、楽器、オーディオ再生機器などを接続します。MIX L/R MASTER出力端子やAUX出力端子にはパワーアンプやパワード・スピーカーを接続してください。



・本機は、端末から操作することで全てのマイク/ライン入力端子にファンタム電源が供給できます。アンバランスの信号や、電源内蔵のコンデンサー型マイクロホン、ダイレクト・ボックスをマイク/ライン入力端子に接続する場合は、接続前に端末でファンタム電源をOFFにしてください。ファンタム電源がONの状態のまま機器を接続し本機の電源をONにすると、接続した機器の故障の原因となります。

電源をONにする

以下の手順に従って電源をONにしてください。

- 1. 本機や接続した機器の電源が全てOFFになっていることを確認します。
- 2. 付属の電源アダプターと電源コードを接続します。
- 3. 電源端子と電源アダプターを接続し、電源コードとコンセントを接続します。
- 4. 入出力端子に接続した機器の音量を最小にします。
- 5. PHONESつまみ、MIX L/R MASTERつまみを最小にします。
- 6. 入力端子に接続した機器の電源を入れます。
- 7. 電源スイッチをONにして電源を入れます。起動中はWiFi LEDが点滅し、使用可能な状態になると点灯に変わります。
- 8. 出力端子に接続した機器の電源を入れます。



・AUX出力端子から出力される信号のレベルは、端末からのみ操作できます。突然大きな音が出力されないように、出力端子に接続した機器の音量を上げる前に、端末で出力音量を確認してください。



端末とWi-Fiで接続する

本機のほぼ全ての機能は、Wi-Fiで接続したタブレットやスマートフォン、PCなどの端末からワイヤレスで操作可能です。Wi-Fiアクセスポイント機能を備えているため、別途通信機器を用意することなく直接接続できます。端末をWi-Fiで接続しwebブラウザーで指定のURLを開くと、webサーバー機能によりブラウザーに本機の操作画面が表示されます。以下の手順に従って本機と端末を接続してください。

備考・有線LANや外部ネットワーク機器を経由して接続することも可能です。

- 1. Wi-Fiアンテナを端子に確実に接続して垂直に立てます。
- 2. 端末のWi-Fi設定を開き、本機のWi-Fiアクセスポイント(工場出荷時、Ui12は「Soundcraft Ui12」、Ui16は「Soundcraft Ui16」)に接続します。初めて接続する場合はパスワードの入力を求められます。工場出荷時のパスワードは「scuiwlan」です。



iPad の Wi-Fi 設定画面

- 3. 端末のwebブラウザーを起動し、URLに[ui-mixer.io]と入力します。
- 4. 操作画面を選択します。大きな画面の端末での使用に便利なタブレット/PC版と小さな画面の端末での使用に便利なスマートフォン版から 選択してください。選択すると操作画面が表示されます。



操作画面の選択



- ・セキュリティー強化のため、初期パスワードはそのまま使用せずに変更してください。変更は設定ページのNETWORKタブからアクセスでき Hotspot Configurationページ(P.34参照)で行います。
- ・パスワードは忘れないようにしてください。忘れた場合はネットワーキングリセットが必要です。ネットワーキングリセットを行うと、パスワードとネットワーク設定が工場出荷時の状態に戻ります。

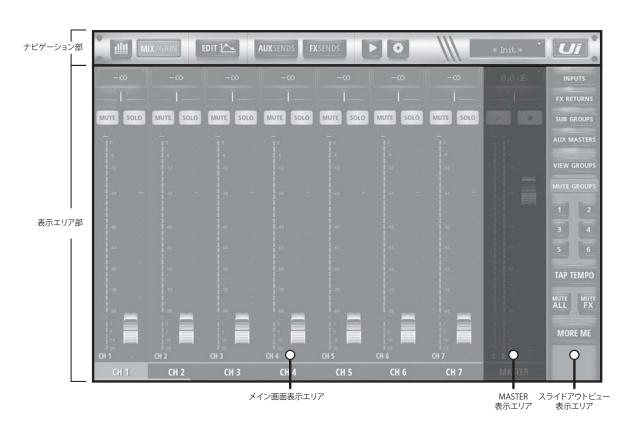


操作画面の概要

操作画面には、大きな画面の端末での使用に便利なタブレット/PC版と小さな画面の端末での使用に便利なスマートフォン版の2つのバージョンがあります。ここでは、操作性に優れたタブレット/PC版の操作画面の概要を記載します。

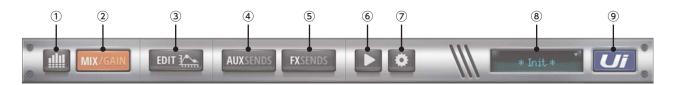
タブレット/PC版の操作画面

タブレット/PC版の操作画面は、大きく分けてナビゲーション部と表示エリア部に分かれています。ナビゲーション部では、主要ページへの移動やショー/スナップショットの呼び出し、スライドアウトビューの表示/非表示を操作します。表示エリア部は3つに分かれており、メイン画面表示エリアにはナビゲーション部で選択したページが、MASTER表示エリアにはMIX L/R MASTERフェーダーが、スライドアウトビュー表示エリアにはスライドアウトビューが表示されます。





ナビゲーション部の各部の名称と機能



① メーターボタン

メイン画面表示エリアにメーターページを表示します。もう一度選択するとMIXページに戻ります。メーターページには、各入出力の設定状態や信号レベルの確認などを行うMETERSタブ、ミュートグループの設定を行うMUTESタブ、ビューグループの設定を行うVIEWSタブ、サブグループの設定を行うSUBSタブがあります。詳細はP.16の「メーターページの各部の名称と機能」をご覧ください。

② MIX/GAINボタン

メイン画面表示エリアにMIXページを表示します。もう一度選択するとGAINページを表示します。選択するたびに、MIXページとGAINページが切り替わります。MIXページでは、各入出力を一覧で表示し制御できます。GAINページでは、各入力のゲインを一覧で表示し制御できます。詳細はP.19の「MIXページの各部の名称と機能」や、P.21の「GAINページの各部の名称と機能」をご覧ください。

③ EDITボタン

メイン画面表示エリアにEDITページを表示します。もう一度選択するとMIXページに戻ります。EDITページには、DigiTechのアンプ・シミュレーターの設定を行うDigiTechタブ、ハイパスフィルターやパラメトリックEQ、ディエッサー、グラフィックEQ、ハウリング・サプレッサーの設定を行うEQタブ、コンプレッサーやゲートの設定を行うDYNタブ、FXバスへの出力やLexicon PROエフェクト・プロセッサーの設定を行うFX SENDSタブ、AUXバスへの出力の設定を行うAUX SENDSタブがあります。詳細はP.22の「EDITページの各部の名称と機能」をご覧ください。

④ AUX SENDSボタン

メイン画面表示エリアにAUX SENDSページを表示します。もう一度選択するとMIXページに戻ります。AUX SENDSページでは、各入力からAUXバスへの出力フェーダーを一覧で表示し制御できます。詳細はP.28の「AUX SENDSページの各部の名称と機能」をご覧ください。

⑤ FX SENDSボタン

メイン画面表示エリアにFX SENDSページを表示します。もう一度選択するとMIXページに戻ります。FX SENDSページでは、各入力からFX バスへの出力フェーダーを一覧で表示し制御できます。詳細はP.30の「FX SENDSページの各部の名称と機能」をで覧ください。

⑥ メディアボタン

メイン画面表示エリアにメディアページを表示します。もう一度選択するとMIXページに戻ります。メディアページでは、USBメモリーを使用した音声信号の再生やMIX L/Rバスの信号の録音が行えます。詳細はP.32の「メディアページの各部の名称と機能」をご覧ください。

⑦ 設定ボタン

メイン画面表示エリアに設定ページを表示します。もう一度選択するとMIXページに戻ります。設定ページには、ネットワークの設定を行う NETWORKタブ、アクセス制限の設定を行うACCESSタブ、ショー/スナップショットの管理を行うSHOWSタブ、システムの設定を行う SETTINGSタブ、モデル名やシリアルナンバー、ファームウェアのバージョンを表示するABOUTタブがあります。詳細はP.33の「設定ページ の各部の名称と機能」をご覧ください。

⑧ ショー/スナップショットボタン

ショー/スナップショットの呼び出し画面を開きます。ショー/スナップショットボタンを使用すれば、設定ページのSHOWSタブにアクセスしなくてもショー/スナップショットを直接呼び出すことができます。TAPボタンを押しているときは現在のディレイタイムが表示されます。ショー/スナップショットの呼び出し方法は以下の通りです。

- 1. ショー/スナップショットボタンを選択し、呼び出し画面を開きます。
- 2. 左側のSHOWSリストから呼び出したいショーを選択します。
- 3. 2で選択したショーの中に保存されているスナップショットが右側のSNAPSHOTSリストに表示されます。呼び出したいスナップショットを2回連続で素早く押してください。選択したショー/スナップショットが呼び出されます。現在呼び出されているショー/スナップショットは赤字の表示に変わります。

⑨ スライドアウトボタン

スライドアウトビュー表示エリアにスライドアウトビューを表示します。スライドアウトビューを使用すれば、各機能に素早くアクセスできます。詳細はP.14の「表示エリア部の各部の名称と機能」をご覧ください。通常スライドアウトビューはボタンを押したときだけ表示されページを切り替えると消えますが、設定ページのSETTINGSタブ(P.39参照)で設定することで、MIXページ、AUX SENDSページ、FX SENDSページで常時表示させることもできます。



表示エリア部の各部の名称と機能

メイン画面表示エリア

ページによって表示項目が異なります。それぞれのページの詳細をご覧ください。

MASTER表示エリア

MIX L/Rバスの信号をMIX L/R MASTER出力端子に送るための最終的な調整を行います。

① ディスプレイ

通常は現在のフェーダーの設定値を表示します。バランスつまみを操作したときは、バランスの設定値を表示します。ディスプレイを押すごとに、メイン画面表示エリアの表示がメーターページとMIXページに切り替わります。

② バランスつまみ

バランスを調整します。操作中は設定値がディスプレイに表示されます。2回連続で素早く押すとつまみを中央の位置にできます。

③ ショートカットボタン

最短でアクセスできるように、よく使用する機能を割り当てます。F1(左)とF2(右)の2つのボタンを備えており、設定ページのSETTINGSタブ(P.39参照)で設定することで、それぞれに別の機能を割り当て可能です。

④ フェーダー

信号の出力レベルを調整します。現在の設定値はディスプレイで確認できます。フェーダーを2回連続で素早く押すとEDITページのEQタブが開きます。

⑤ クリップインジケーター

信号がクリップしているときに赤色に点灯します。頻繁に点灯する場合はフェーダーを下げてください。

⑥ レベルメーター

信号レベルを表示します。青色のメーターは入力レベルを、緑〜黄〜赤色のメーターはフェーダー通過後の出力レベルを表示します。

⑦ ゲートインジケーター

ゲートの動作時に赤色に点灯します。

⑧ ゲインリダクションメーター

コンプレッサーによる減衰量を表示します。

⑨ MASTERボタン

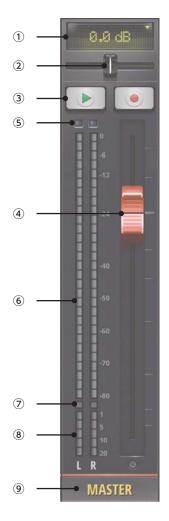
2回連続で素早く押すとEDITページのDYNタブが開き、長押しするとサブメニューが表示されます。サブメニューの表示項目の詳細は以下の通りです。

SET TO ZERO DB

フェーダーをOdBに設定します。

MASTER PRESETS

MIX L/R MASTERに関するプリセットの呼び出しや保存を行います。入力信号に合わせたプリセットが保存されているFACTORYプリセット(2016年9月現在ではデータなし)と、ユーザー独自の設定を保存するUSERプリセットがあります。呼び出す場合は、呼び出したいプリセットを選択し「LOAD」を押してください。保存する場合は、「SAVE」を押してプリセット名を入力し「OK」を押してください。USERプリセットに保存されます。USERプリセットは、「RENAME」で名前の変更が、「DELETE」で削除ができます。





スライドアウトビュー表示エリア

MIX L/Rバスの信号をMIX L/R MASTER出力端子に送るための最終的な調整を行います。

① INPUTSボタン

メイン画面表示エリアにマイク/ライン入力端子からの入力を一覧で表示します。もう一度選択するとMIXページに戻ります。

② FX RETURNSボタン

メイン画面表示エリアにFXリターンを一覧で表示します。もう一度選択するとMIXページに戻ります。

③ SUB GROUPSボタン

メイン画面表示エリアにサブグループを一覧で表示します。もう一度選択するとMIXページに戻ります。

④ AUX MASTERSボタン

メイン画面表示エリアにAUX MASTERを一覧で表示します。もう一度選択するとMIXページに戻ります。

⑤VIEW GROUPSボタン

ビュー/ミュートグループ呼び出しボタンを、ビューグループを呼び出すためのボタンに切り替えます。長押しするとメイン画面表示エリアにビューグループの設定を行うメーターページのVIEWSタブ(P.17参照)が表示されます。

⑥ MUTE GROUPSボタン

ビュー/ミュートグループ呼び出しボタンを、ミュートグループを呼び出すためのボタンに切り替えます。長押しするとメイン画面表示エリアにミュートグループの設定を行うメーターページのMUTESタブ(P.17 参照)が表示されます。

⑦ ビュー/ミュートグループ呼び出しボタン

あらかじめ設定したビューグループまたはミュートグループを呼び出すためのボタンです。ビューグループを呼び出す場合はVIEW GROUPSボタンを、ミュートグループを呼び出す場合はMUTE GROUPSボタンを押した後、呼び出したいビュー/ミュートグループ呼び出しボタンを押してください。

⑧ TAPボタン

曲に合わせて押すことでテンポ(BPM)を変更できます。操作中は設定値がナビゲーション部のショー/スナップショットボタンに表示されます。ボタンを長押しすると、テンポをキーボードで入力できます。

⑨ MUTE ALLボタン

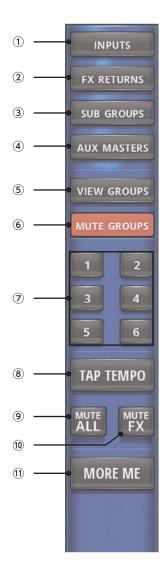
全てのミュートのON/OFFを一括で切り替えます。

⑩ MUTE FXボタン

全てのFXリターンのミュートのON/OFFを一括で切り替えます。

① MORE MEボタン

MORE MEの制御画面を開きます。MORE MEを使用すれば、AUX MASTER出力から出力されるモニター信号のミックスバランスを、1本の大型フェーダーで簡単に調整できます。詳細はP.49の「MORE ME」をご覧ください。





操作画面の各ページの詳細

タブレット/PC版の操作画面のメイン画面表示エリアには、「メーターページ」「MIXページ」「GAINページ」「EDITページ」「AUX SENDSページ」「FX SENDSページ」「メディアページ」「設定ページ」の計7種類のページが表示されます。ここでは、各ページの詳細を記載します。

メーターページの各部の名称と機能

メーターページには、各入出力の設定状態や信号レベルの確認などを行うMETERSタブ、ミュートグループの設定を行うMUTESタブ、ビューグループの設定を行うVIEWSタブ、サブグループの設定を行うSUBSタブがあります。メーターページの各部の名称と機能は以下の通りです。

METERSタブ

各入出力のファンタム電源、位相反転、ミュート、ソロの設定状態や、信号レベル、ゲートの動作、コンプレッサーによる減衰量が一覧で表示されます。 下部のボタンではミュートやソロ、ディレイタイムの操作が行えます。



① MUTE GROUP1~6ボタン

あらかじめ設定したミュートグループを呼び出すためのボタンです。ミュートグループの設定方法はP.17の「メーターページの各部の名称と機能」の「MUTESタブ」をご覧ください。

② TAPボタン

曲に合わせて押すことでテンポ(BPM)を変更できます。操作中は設定値がナビゲーション部のショー/スナップショットボタンに表示されます。ボタンを長押しすると、テンポをキーボードで入力できます。

③ CLEAR SOLOボタン

全てのソロを一括でOFFにします。

④ MUTE ALLボタン

全てのミュートのON/OFFを一括で切り替えます。

⑤ MUTE FXボタン

全てのFXリターンのミュートのON/OFFを一括で切り替えます。



MUTESタブ

ミュートグループの設定を行います。ミュートグループを使えば、複数の入出力のミュートのON/OFFをボタン1つで制御できます。設定の手順は以下の通りです。



- 1. 「MUTE GROUP BUTTON ASSIGN」で設定したいミュートグループを選択します。
- 2. 1で選択したミュートグループに割り当てたい入出力を選択します。
- 3. 「SAVE TO SHOW」と表示されるので選択してください。設定が適用されると同時に、現在再現されているショーに設定が保存されます。
- 備考
- · 「SAVE TO SHOW」は設定を変更したときだけ表示されます。
- ・「RESET」を選択すると、「MUTE GROUP BUTTON ASSIGN」で選択されているミュートグループの設定がリセットされます。

VIEWSタブ

ビューグループの設定を行います。ビューグループを使えば、使用頻度の高い入出力を1つの画面に一覧で表示できます。設定の手順は以下の通りです。



- 1. 「VIEW GROUP BUTTON ASSIGN」で設定したいビューグループを選択します。
- 2. 1で選択したビューグループに割り当てたい入出力を選択します。
- (益妻)・ビューグループの設定はその端末にのみ保存されます。ショーやスナップショットに保存されません。
 - ・「RESET」を選択すると、「VIEW GROUP BUTTON ASSIGN」で選択されているビューグループの設定がリセットされます。



SUBSタブ

サブグループの設定を行います。サブグループを使えば、複数の入力フェーダーを1本のサブグループフェーダーで制御できます。設定の手順は以 下の通りです。



- 1. 「SUB GROUP FADER ASSIGN」で設定したいサブグループを選択します。
- 2. 1で選択したサブグループに割り当てたい入力を選択します。
- 3. 必要に応じて設定ページのSHOWSタブ(P.37参照)でスナップショットに設定を保存します。
- 4. スナップショットに設定を保存します。
- 備考・1つの入力を複数のサブグループに割り当てることはできません。
 - ·「RESET」を選択すると、「SUB GROUP FADER ASSIGN」で選択されているサブグループの設定がリセットされます。



MIXページの各部の名称と機能

MIXページでは、各入出力を一覧で表示し制御できます。左から順に以下の入出力が配置されています。

 $CH1 \sim 8(Ui12)/CH1 \sim 12(Ui16)$:マイク/ライン入力端子に入力されてGAINページを通過後の信号を制御し、MIX L/Rバスに出力します。

LINE IN L/R: LINE IN L/R入力端子に入力された信号を制御しMIX L/Rバスに出力します。

PLAYER L/R: USB端子に入力された信号を制御しMIX L/Rバスに出力します。

FX1~3(Ui12)/FX1~4(Ui16)【FXリターン】: Lexicon PROエフェクト・プロセッサー通過後の信号を制御しMIX L/Rバスに出力します。 GROUP1~4【サブグループ】: サブグループに割り当てられたフェーダーをまとめて制御します。

AUX1~4(Ui12)/AUX1~6(Ui16)【AUX MASTER】: AUXバスからの出力信号を制御しAUX出力端子に出力します。

備考

・通常、Ui12は2系統、Ui16は4系統のAUXバスを装備しています。設定ページのSETTINGSタブ(P.39参照)で、ヘッドホン出力をAUX出力に切り替えることで、AUXバスを2系統増設できます(Ui12ではAUX3/4、Ui16ではAUX5/6)。

MIXページの各部の名称と機能は以下の通りです。



① ディスプレイ

通常は現在のフェーダーの設定値を表示します。パン/バランスつまみを操作したときは、パン/バランスの設定値を表示します。長押しするとフェーダーの設定値をキーボードで入力でき、2回連続で素早く押すとフェーダーをOdBの位置にできます。隣り合う入出力がステレオにリンクされている場合は、ディスプレイ上部にリンクを示すラインが表示されます。

② パン/バランスつまみ (AUX MASTERを除く)

通常はパンを調整します。隣り合うフェーダー同士がステレオにリンクされている場合はバランスを調整します。操作中は設定値がディスプレイに表示されます。2回連続で素早く押すとつまみを中央の位置にできます。

③ MUTEボタン

ミュートのON/OFFを切り替えます。

④ SOLOボタン

ソロのON/OFFを切り替えます。ONにすると信号がソロバスに出力されてヘッドホンで検聴できます。

⑤ フェーダー

信号の出力レベルを調整します。現在の設定値はディスプレイで確認できます。フェーダーを2回連続で素早く押すとEDITページのEQタブが開きます。

⑥ クリップインジケーター

信号がクリップしているときに赤色に点灯します。頻繁に点灯する場合はフェーダーを下げてください。

⑦ レベルメーター

信号レベルを表示します。青色のメーターは入力レベルを、緑〜黄〜赤色のメーターはフェーダー通過後の出力レベルを表示します。

⑧ ゲートインジケーター

ゲートの動作時に赤色に点灯します。



⑨ ゲインリダクションメーター

コンプレッサーによる信号の減衰量を表示します。

⑩ CH/LINE IN L/R/PLAYER L/R/FX/GROUP/AUXボタン

2回連続で素早く押すとEDITページのDYNタブが開き、長押しするとサブメニューが表示されます。サブメニューの表示項目の詳細は 以下の通りです。

CHANNEL PRESETS

ハイパスフィルター、パラメトリックEQ、コンプレッサー、ゲートに関するプリセットの呼び出しや保存を行います。入力信号に合わせたプリセッ トが保存されているFACTORYプリセットと、ユーザー独自の設定を保存するUSERプリセットがあります。呼び出す場合は、呼び出したいプ リセットを選択し「LOAD」を押してください。保存する場合は、「SAVE」を押してプリセット名を入力し「OK」を押してください。USERプリ セットに保存されます。USERプリセットは、「RENAME」で名前の変更が、「DELETE」で削除ができます。



備考・CHANNEL PRESETSは、EDITページのEQタブ(ハイパスフィルター、パラメトリックEQ)とEDITページのDYNタブ(コンプレッサー、ゲート) のFACTORYプリセットを呼び出すことで、音響調整を行います。CHANNEL PRESETSのFACTORYプリセットを呼び出すと、それぞれのタ ブの該当するFACTORYプリセットが呼び出された状態になります。

RENAME

ボタン(入出力)の名前を変更します。変更したい場合は新しい名前を入力し「OK |を押してください。

COPY SETTINGS/PASTE SETTINGS

設定をコピーし、他の入出力にペーストします。「COPY SETTINGS」を選択すると、その入出力の設定がクリップボードにコピーされます。 「PASTE SETTINGS |を選択すると、クリップボードにコピーされている設定がその入出力にペーストされます。「PASTE SETTINGS |は クリップボードにデータがあるときだけ表示されます。

ASSIGN SUB GROUP/UNASSIGN SUB GROUP(CH/LINE IN L/R/PLAYER L/Rのみ)

サブグループに入力を割り当てます。選択するとグループ番号が表示されるので、割り当てたいグループを選んでください。既にサブグルー プに割り当てられている場合は「UNASSIGN SUB GROUP(グループ番号)」と表示されます。選択すると割り当てが解除できます。



備考・1つの入力を複数のサブグループに割り当てることはできません。

・サブグループへの割り当てはメーターページのSUBSタブ(P.18参照)でも行えます。

STEREO LINK/DISABLE STEREO LINK(CH/LINE IN L/R/PLAYER L/R/AUX MASTERのみ)

右隣の入出力とステレオにリンクします。リンクすると、左の入出力がレフト、右の入出力がライト側のコントロールに切り替わり、一方の信号 処理の設定を変えると、もう一方もそれに連動して変更されます。既にステレオにリンクされている場合は「DISABLE STEREO LINK」と 表示されます。選択するとリンクが解除できます。

RESET CHANNEL

設定を工場出荷時の状態にリセットします。リセットしたい場合は「OK |を押してください。

PLACE BEFORE INPUTS/PLACE AFTER INPUTS(PLAYER L/Rのみ)

PLAYER L/RをCHの前に移動させます。既に移動している場合は「PLACE AFTER INPUTS」と表示されます。選択すると元の位置に 戻ります。

SUB GROUP SPREAD/SHOW ALL CHANNELS(GROUPのみ)

サブグループに割り当てられている入力をメイン画面表示エリアに一覧で表示します。既に一覧で表示されている場合は「SHOW ALL CHANNELS と表示されます。選択するとMIXページに戻ります。

ASSIGN ME/UNASSIGN ME(CH/LINE IN L/R/PLAYER L/Rのみ)

MORE MEに入力を割り当てます。既に割り当てられている場合は「UNASSIGN ME」と表示されます。選択すると割り当てが解除されま す。MORE MEを使用すると、AUX MASTER出力から出力されるモニター信号のミックスバランスを、1本の大型フェーダーで簡単に調整 できます。詳細はP.49の「MORE ME」をご覧ください。

ASSIGN"MY OUT"/UNASSIGN"MY OUT"(AUX MASTERのみ)

MORE MEICAUX MASTERを割り当てます。既に割り当てられている場合は「UNASSIGN ME」と表示されます。選択すると割り当てが 解除されます。MORE MEを使用すると、AUX MASTER出力から出力されるモニター信号のミックスバランスを、1本の大型フェーダーで 簡単に調整できます。詳細はP.49の「MORE ME」をご覧ください。



GAINページの各部の名称と機能

GAINページでは、マイク/ライン入力端子から入力された信号のゲインを一覧で表示し制御できます。GAINページの各部の名称と機能は以下の通りです。



① ディスプレイ

現在のフェーダーの設定値を表示します。長押しすると設定値をキーボードで入力できます。隣り合う入出力がステレオにリンクされている場合は、ディスプレイ上部にリンクを示すラインが表示されます。

② +48Vボタン

48Vファンタム電源のON/OFFを切り替えます。



・アンバランスの信号や、電源内蔵のコンデンサー型マイクロホン、ダイレクト・ボックスをマイク/ライン入力端子に接続する場合は、必ずファンタム電源をOFFにしてください。接続した機器の故障の原因となります。



・ファンタム電源をONにすると、スピーカーの損傷を防ぐために信号が瞬間的にミュートされます。

③ φボタン

位相を反転させます。

④ HI-Zボタン(CH1/2のみ)

ハイ・インピーダンス接続のON/OFFを切り替えます。ギターやベースなどのハイ・インピーダンス出力の楽器を直接接続する場合はONにしてください。

⑤ フェーダー

入力ゲインを調整します。現在の設定値はディスプレイで確認できます。フェーダーを2回連続で素早く押すとEDITページのEQタブが開きます。

⑥ クリップインジケーター

信号がクリップしているときに赤色に点灯します。頻繁に点灯する場合はフェーダーを下げてください。

⑦ レベルメーター

フェーダー通過後の信号レベルを表示します。

⑧ CHボタン

2回連続で素早く押すとEDITページのDYNタブが開き、長押しするとサブメニューが表示されます。サブメニューの表示項目はMIXページと同様です。



EDITページの各部の名称と機能

EDITページには、DigiTechのアンプ・シミュレーターの設定を行うDigiTechタブ、ハイパスフィルターやパラメトリックEQ、ディエッサー、グラフィックEQ、ハウリング・サプレッサーの設定を行うEQタブ、コンプレッサーやゲートの設定を行うDYNタブ、FXバスへの出力やLexicon PROエフェクト・プロセッサーの設定を行うFX SENDSタブ、AUXバスへの出力の設定を行うAUX SENDSタブがあります。タブの構成や各タブで操作できる項目は、入出力によって異なります。EDITページの各部の名称と機能は以下の通りです。

DigiTechタブ

CH1/2を選択しているときだけ表示され、主にDigiTechアンプ・シミュレーターの設定を行います。Lexicon PROエフェクト・プロセッサー、ハイパスフィルター、ノッチフィルター、コンプレッサー、ゲートの簡易的な設定も行えます。



① PRESETSボタン

プリセットの呼び出しや保存を行います。DigiTechアンプ・シミュレーターのプリセットが保存されているFACTORYプリセットと、ユーザー独自の設定を保存するUSERプリセットがあります。呼び出す場合は、呼び出したいプリセットを選択し「LOAD」を押してください。保存する場合は、「SAVE」を押してプリセット名を入力し、「OK」を押すとUSERプリセットに保存されます。USERプリセットは、「RENAME」で名前の変更が、「DELETE」で削除ができます。

② HI-Zボタン

ハイ・インピーダンス接続のON/OFFを切り替えます。ギターやベースなどのハイ・インピーダンス出力の楽器を直接接続する場合はONにしてください。

③ DigiTech ON/OFFボタン

DigiTechアンプ·シミュレーターのON/OFFを切り替えます。

④ アンプ選択

ギター/ベースアンプを選択します。選択すると利用可能なアンプが一覧で表示されます。FACTORYプリセットにはない、モデルやキャビネットとの組み合わせを試したい場合はここから選択してください。

⑤ キャビネット選択

キャビネットを選択します。選択すると利用可能なキャビネットが一覧で表示されます。FACTORYプリセットにはない、モデルやアンプとの組み合わせを試したい場合はここから選択してください。

⑥ アンプコントロール

ギター/ベースアンプの調整を行います。調整できる項目は、GAIN、LEVEL、BASS、MID、TREBLEです。

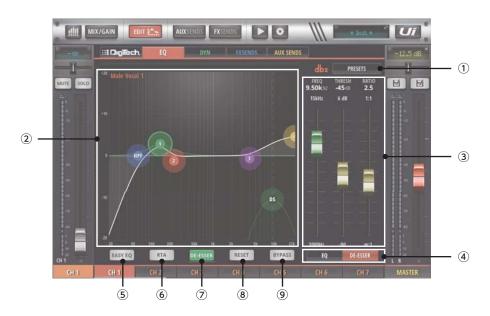
⑦ SHORTCUTS

Lexicon PROエフェクト・プロセッサー、ハイパスフィルター、ノッチフェイルター、コンプレッサー、ゲートの簡易的な設定が行えます。調整したい項目を上部のボタンで選択すると、調整可能なパラメーターが下に表示されます。



EQ(パラメトリックEQ)タブ

CH、LINE IN L/R、PLAYER L/R、FX、GROUPを選択しているときだけ表示され、ハイパスフィルター、4バンド・パラメトリックEQ、ディエッサー (CHのみ)の設定を行います。



① PRESETSボタン

ハイパスフィルター、パラメトリックEQに関するプリセットの呼び出しや保存を行います。入力信号に合わせたプリセットが保存されている FACTORYプリセットと、ユーザー独自の設定を保存するUSERプリセットがあります。呼び出す場合は、呼び出したいプリセットを選択し「LOAD」を押してください。保存する場合は、「SAVE」を押してプリセット名を入力し「OK」を押してください。USERプリセットに保存されます。USERプリセットは、「RENAME」で名前の変更が、「DELETE」で削除ができます。

② グラフ

ハイパスフィルター、パラメトリックEQ、ディエッサーの設定状態の確認と制御を行います。ハイパスフィルターはHPF、パラメトリックEQは 1/2/3/4(EASY EQモードの場合はB/M/T)、ディエッサーはDSの円で表示され、その円を指やマウスを動かして操作します。円を2回連続で素早く押すと設定がリセットされます。また、選択した円はフェーダーで操作することもできます。グラフにはリアルタイムアナライザーの波形も表示されます。

③ フェーダー

ハイパスフィルター、パラメトリックEQ、ディエッサーを制御します。グラフや各ボタンで操作したい機能を選択すると、そのパラメーターがフェーダーで操作できるようになります。

④ EQ/DE-ESSERボタン(CHのみ)

EQとディエッサーのどちらをフェーダーでコントロールするか選択します。

⑤ EASY EQボタン

パラメトリックEQの設定を簡単に行えるEASY EQモードのON/OFFを切り替えます。ONにすると、4バンド・パラメトリックEQが、3バンド周波数固定/Q固定の簡易版に切り替わります。EQカーブは、中域がピーキング、低域/高域がシェルビングです。EASY EQモードは、設定項目が少ないのでEQの調整に慣れていない方でも簡単に操作できます。

・通常のパラメトリックEQでは、4バンド全てで、中心周波数(FREQ)、バンド幅(Q)、ブースト/カット量(GAIN)が調整できます。EASY EQモードのときに各バンドで操作できるのはブースト/カット量のみです。

⑥ RTAボタン

リアルタイムアナライザーのON/OFFを切り替えます。ONにすると信号の周波数成分を表す波形がグラフの背面に表示されます。

⑦ **DE-ESSERボタン**(CHのみ)

ディエッサーのON/OFFを切り替えます。

® RESETボタン

パラメトリックEQ、ハイパスフィルター、ディエッサーの設定をリセットします。EASY EQモードはOFFになります。

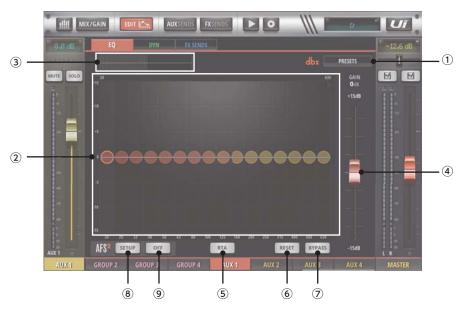
⑨ BYPASSボタン

パラメトリックEQをバイパスします。ハイパスフィルター、ディエッサーは影響を受けません。



EQ(グラフィックEQ)タブ

AUX、MASTERを選択しているときだけ表示され、31バンド・グラフィックEQやAFS²ハウリング・サプレッサーの設定を行います。



① PRESETSボタン

グラフィックEQに関するプリセットの呼び出しや保存を行います。入力信号に合わせたプリセットが保存されているFACTORYプリセット (2016年9月現在ではデータなし)と、ユーザー独自の設定を保存するUSERプリセットがあります。呼び出す場合は、呼び出したいプリセットを選択し「LOAD」を押してください。保存する場合は、「SAVE」を押してプリセット名を入力し「OK」を押してください。USERプリセットに保存されます。USERプリセットは、「RENAME」で名前の変更が、「DELETE」で削除ができます。

② グラフ

グラフィックEQの設定状態の確認と制御を行います。調整可能な周波数ごとに円が配置されており、その円を指やマウスで上下に動かして操作します。円を2回連続で素早く押すと設定がリセットされます。グラフィックEQは20~630Hzまでを調整する画面と630Hz~20kHzまでを調整する画面に分かれています。画面の切り替えは、グラフ上部の帯域選択ボタンで行います。また、選択した円はフェーダーで操作することもできます。グラフにはリアルタイムアナライザーの波形も表示されます。

③ 帯域選択ボタン

グラフで調整する周波数帯域を切り替えます。押すごとに、 $20\sim630$ Hzまでを調整する画面と630Hz ~20 kHzまでを調整する画面が切り替わります。

④ フェーダー

グラフィックEQを制御します。グラフで操作したい周波数を選択すると、そのゲインがフェーダーで操作できるようになります。

⑤ RTAボタン

リアルタイムアナライザーのON/OFFを切り替えます。ONにすると信号の周波数成分を表す波形がグラフの背面に表示されます。

⑥ RESETボタン

グラフィックEQの設定をリセットします。

⑦ BYPASSボタン

グラフィックEQをバイパスします。AFS²ハウリング・サプレッサーは影響を受けません。

⑧ AFS² SETUPボタン

AFS²ハウリング・サプレッサーのセットアップ画面を開きます。詳細はP.43の「AFS²ハウリング・サプレッサー」をご覧ください。

⑨ AFS² ONボタン

AFS²ハウリング・サプレッサーのON/OFFを切り替えます。詳細はP.43の「AFS²ハウリング・サプレッサー」をご覧ください。



DYNタブ

コンプレッサー、ゲートの設定を行います。MASTERを選択しているとき、タブの右端にあるL/Rのリンクマークを操作するとリンクが解除され、LとRを異なる設定にできます。



① PRESETSボタン

コンプレッサー、ゲートに関するプリセットの呼び出しや保存を行います。入力信号に合わせたプリセットが保存されているFACTORYプリセットと、ユーザー独自の設定を保存するUSERプリセットがあります。呼び出す場合は、呼び出したいプリセットを選択し「LOAD」を押してください。保存する場合は、「SAVE」を押してプリセット名を入力し「OK」を押してください。USERプリセットに保存されます。USERプリセットは、「RENAME」で名前の変更が、「DELETE」で削除ができます。

② グラフ

コンプレッサー、ゲートの設定状態の確認と、コンプレッサーの制御を行います。コンプレッサーのスレッショルドはT、レシオはRの円で表示され、その円を指やマウス動かして操作します。フェーダーで操作することもできます。

③ IN/OUT/COMPメーター

INメーターは入力信号レベル、OUTメーターは出力信号レベル、COMPメーターはコンプレッサーによる減衰量を表示します。

④ THRESHOLDスライドバー

コンプレッサーのスレッショルドを調整します。

⑤ GATEフェーダー

ゲートのスレッショルドを調整します。

⑥ RATIOフェーダー

コンプレッサーのレシオ(圧縮比率)を調整します。

⑦ ATTACKフェーダー

コンプレッサーのアタック時間を調整します。

® RELEASEフェーダー

コンプレッサーのリリース時間を調整します。

9 GAINフェーダー

コンプレッサーのゲインを調整します。信号のコンプレッションによって失われるゲインの補正に使用します。

⑩ SOFT KNEE/HARD KNEEボタン

コンプレッサーのニー特性を切り替えます。ボタンを押すたびにSOFT KNEE(ソフトニー)、HARD KNEE(ハードニー)が切り替わります。ニー特性とは入力信号がスレッショルドを超えた時に信号が減衰していくカーブの特性で、ハードニーでは急峻に減衰し、ソフトニーでは緩やかに減衰します。

① RESETボタン

コンプレッサー、ゲートの設定をリセットします。

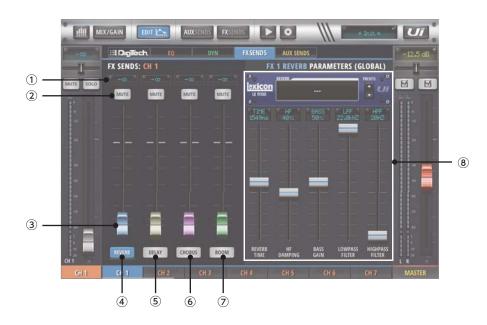
[®] BYPASSボタン

コンプレッサーをバイパスします。ゲートは影響を受けません。



FX SENDSタブ

FXバスへの信号の出力量の調整や、FXバスに割り当てられているLexicon PROエフェクト・プロセッサーの設定を行います。



① ディスプレイ

現在のフェーダーの設定値を表示します。

② MUTEボタン

ミュートのON/OFFを切り替えます。

③ フェーダー

信号の出力レベルを調整します。現在の設定値はディスプレイで確認できます。また、フェーダーを操作すると、Lexicon PROエフェクト・プロセッサー制御パネルでそのバスに割り当てられているプロセッサーが操作できるようになります。

④ REVERBボタン

Lexicon PROエフェクト・プロセッサー制御パネルで操作するプロセッサーをリバーブに切り替えます。

⑤ DELAYボタン

Lexicon PROエフェクト・プロセッサー制御パネルで操作するプロセッサーをディレイに切り替えます。

⑥ CHORUSボタン

Lexicon PROエフェクト・プロセッサー制御パネルで操作するプロセッサーをコーラスに切り替えます。

⑦ ROOM(DELAY)ボタン(Ui16のみ)

Lexicon PROエフェクト・プロセッサー制御パネルで操作するプロセッサーをルームアンビエンスに切り替えます。ボタンを長押しすることでディレイに切り替えることも可能です。

⑧ Lexicon PROエフェクト・プロセッサー制御パネル

Lexicon PROエフェクト・プロセッサーの設定を行います。プロセッサーの切り替えはフェーダーまたはREVERB/DELAY/CHORUS/ROOM(DELAY)ボタンで行います。各プロセッサーの詳細はP.45の「Lexicon PROエフェクト・プロセッサー」をご覧ください。



AUX SENDSタブ

CH、LINE IN L/R、PLAYER L/R、FXを選択しているときだけ表示され、AUXバスへの信号の出力レベルを調整します。



・通常、Ui12は2系統、Ui16は4系統のAUXバスを装備しています。設定ページのSETTINGSタブ(P.39参照)で、ヘッドホン出力をAUX出力に切り替えることで、AUXバスを2系統増設できます(Ui12ではAUX3/4、Ui16ではAUX5/6)。



① ディスプレイ

現在のフェーダーの設定値を表示します。

② MUTEボタン

ミュートのON/OFFを切り替えます。

③ フェーダー

信号の出力レベルを調整します。現在の設定値はディスプレイで確認できます。

④ PRE/POSTボタン

AUXバスへの出力をそれぞれの入力フェーダー通過前の信号(PRE)にするか、通過後の信号(POST)にするかを設定します。ボタンを押すたびにPRE、POSTが切り替わります。

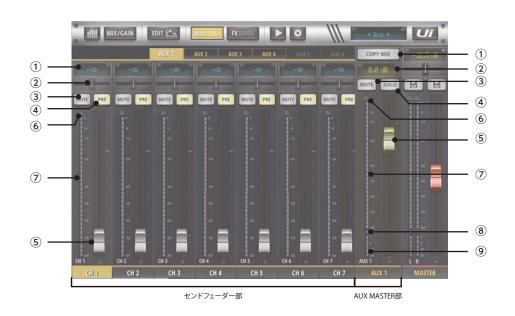


AUX SENDSページの各部の名称と機能

AUX SENDSページでは、入力からAUXバスへのセンドフェーダーを一覧で表示し制御できます。右側にはAUXバスの信号を制御しAUX出力端子に送るAUX MASTERが表示されます。AUXバスの切り替えはタブで行います。AUX SENDSページの各部の名称と機能は以下の通りです。



・通常、Ui12は2系統、Ui16は4系統のAUXバスを装備しています。設定ページのSETTINGSタブ(P.39参照)で、ヘッドホン出力をAUX出力に切り替えることで、AUXバスを2系統増設できます(Ui12ではAUX3/4、Ui16ではAUX5/6)。



センドフェーダー部

入力からAUXバスへの出力を調整します。

① ディスプレイ

通常は現在のフェーダーの設定値を表示します。バランスつまみを操作したときは、バランスの設定値を表示します。長押しするとフェーダーの 設定値をキーボードで入力できます。隣り合うフェーダー同士がステレオにリンクされている場合は、ディスプレイ上部にリンクを示すラインが 表示されます。

② バランスつまみ

隣り合うAUX MASTER出力同士がステレオにリンクされている場合にバランスを調整します。リンクされていない場合は機能しません。操作中は設定値がディスプレイに表示されます。2回連続で素早く押すとつまみを中央の位置にできます。

③ MUTEボタン

ミュートのON/OFFを切り替えます。

④ PRE/POSTボタン

AUXバスへの出力を、入力のフェーダー通過前の信号(PRE)にするか、通過後の信号(POST)にするかを設定します。ボタンを押すたびにPRE、POSTが切り替わります。PRE/POSTボタンを長押しすると、そのAUXバスへの全ての出力をPREフェーダーにする「SET ALL CHANNELS TO "POST"?」ウィンドウが開きます。設定したい場合は「OK」を押してください。

⑤ フェーダー

信号の出力レベルを調整します。現在の設定値はディスプレイで確認できます。

⑥ クリップインジケーター

信号がクリップしているときに赤色に点灯します。頻繁に点灯する場合はフェーダーを下げてください。

⑦ レベルメーター

信号レベルを表示します。青色のメーターは入力レベルを、緑〜黄〜赤色のメーターはフェーダー通過後の出力レベルを表示します。



AUX MASTER部

AUXバスからAUX出力端子への出力を調整します。

① COPY MIXボタン

MIXページからフェーダー位置をコピーし、AUXバスへのセンドフェーダー部の全てのフェーダーを同じ位置に設定します。コピーする場合は確認ウィンドウで「OK」を押してください。

② ディスプレイ

現在のフェーダーの設定値を表示します。2回連続で素早く押すとフェーダーをOdBの位置にできます。隣り合うAUX MASTER同士がステレオにリンクされている場合は、ディスプレイ上部にリンクを示すラインが表示されます。

③ MUTEボタン

ミュートのON/OFFを切り替えます。

④ SOLOボタン

ソロのON/OFFを切り替えます。ONにすると信号がソロバスに出力されてヘッドホンで検聴できます。

⑤ フェーダー

信号の出力レベルを調整します。現在の設定値はディスプレイで確認できます。

⑥ クリップインジケーター

信号がクリップしているときに赤色に点灯します。頻繁に点灯する場合はフェーダーを下げてください。

⑦ レベルメーター

信号レベルを表示します。青色のメーターは入力レベルを、緑〜黄〜赤色のメーターはフェーダー通過後の出力レベルを表示します。

⑧ ゲートインジケーター

ゲートの動作時に赤色に点灯します。

⑨ ゲインリダクションメーター

コンプレッサーによる信号の減衰量を表示します。

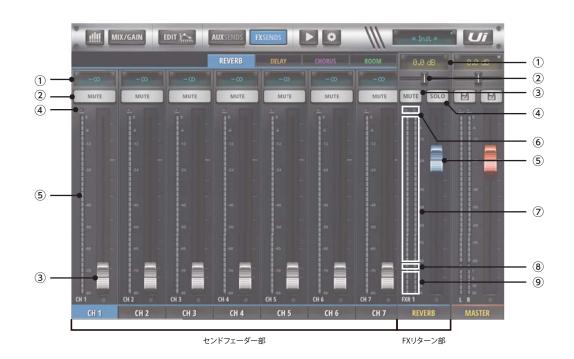


FX SENDSページの各部の名称と機能

FX SENDSページでは、入力やサブグループからFXバスへのセンドフェーダーを一覧で表示し制御できます。右側にはFXバスの信号を制御し各バスに送るFXリターンが表示されます。FXバスの切り替えはタブで行います。FX SENDSページの各部の名称と機能は以下の通りです。



・FXバスには、それぞれ、リバーブ、ディレイ、コーラス、ルームアンビエンス/ディレイ(Uill6のみ)のプロセッサーが割り当てられており、各プロセッサーで調整した信号は、最終的にFXリターンを経由して各バスへ出力されます。



センドフェーダー部

入力やサブグループからFXバスへの出力を調整します。

① ディスプレイ

現在のフェーダーの設定値を表示します。長押しすると設定値をキーボードで入力できます。隣り合うフェーダー同士がステレオにリンクされている場合は、ディスプレイ上部にリンクを示すラインが表示されます。

② MUTEボタン

ミュートのON/OFFを切り替えます。

③ フェーダー

信号の出力レベルを調整します。現在の設定値はディスプレイで確認できます。

④ クリップインジケーター

信号がクリップしているときに赤色に点灯します。頻繁に点灯する場合はフェーダーを下げてください。

⑤ メーター

信号レベルを表示します。青色のメーターは入力レベルを、緑〜黄〜赤色のメーターはフェーダー通過後の出力レベルを表示します。



FXリターン部

FXバスから各バスへの出力を調整します。

① ディスプレイ

通常は現在のFXUターン・フェーダーの設定値を表示します。バランスつまみを操作したときは、バランスの設定値を表示します。2回連続で素早く押すとフェーダーをOdBの位置にできます。

② バランスつまみ

バランスを調整します。操作中は設定値がディスプレイに表示されます。2回連続で素早く押すとつまみを中央の位置にできます。

③ MUTEボタン

ミュートのON/OFFを切り替えます。

④ SOLOボタン

ソロのON/OFFを切り替えます。ONにすると信号がソロバスに出力されてヘッドホンで検聴できます。

⑤ フェーダー

信号の出力レベルを調整します。現在の設定値はディスプレイで確認できます。

⑥ クリップインジケーター

信号がクリップしているときに赤色に点灯します。頻繁に点灯する場合はフェーダーを下げてください。

⑦ レベルメーター

信号レベルを表示します。青色のメーターは入力レベルを、緑〜黄〜赤色のメーターはフェーダー通過後の出力レベルを表示します。

⑧ ゲートインジケーター

ゲートの動作時に赤色に点灯します。

⑨ ゲインリダクションメーター

コンプレッサーによる信号の減衰量を表示します。

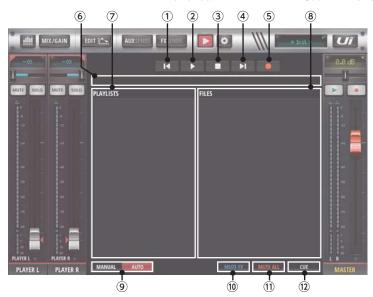


メディアページの各部の名称と機能

メディアページでは、USB端子に接続されたUSBメモリーを使用して、音声信号の再生やMIX L/Rバスの信号の録音が行えます。メディアページの各部の名称と機能は以下の通りです。

備考

・再生できる音声信号は、MP3、AAC、WAV、OGG、AIFF、FLAC形式の音声ファイルです。また、録音はWAV形式の音声ファイルで保存されます。



① 戻るボタン

FILESリストで選択されている音声ファイルの1つ後ろのファイルに戻ります。

② 再生/一時停止ボタン

FILESリストで選択されている音声ファイルの再生や一時停止を行います。再生時は一時停止ボタンに、一時停止時は再生ボタンに変わります。

③ 停止ボタン

音声ファイルの再生を停止します。

④ 進むボタン

FILESリストで選択されている音声ファイルの1つ前のファイルに進みます。

⑤ 録音ボタン

MIX L/Rバスの信号を録音します。押すと再生が始まり、もう一度押すと停止します。

備考・録音すると、USBメモリーに「Recordings」というフォルダーが制作され、その中に「uirec-(日付)_(時間).wav」というファイル名の音声ファイルで保存されます。

⑥ 再牛状況表示バー

音声ファイルの再生状況を表示します。指やマウスで操作することで、再生場所を変更できます。

⑦ PLAYLISTS

プレイリストを一覧で表示します。現在選択されているプレイリストは赤字で表示されます。本機では、USBメモリーに保存された音声ファイルがフォルダー分けされている場合、そのフォルダー1つ1つを個別のプレイリストとして認識します。プレイリストを選択するとFILESリストに、そのプレイリストに保存されている音声ファイルが一覧で表示されます。



- ・フォルダー名に半角英数以外の文字を使用すると文字化けします。
- ・USBメモリーに直接音声ファイルを保存した場合「root」というプレイリストに収められて表示されます。
- ・「all」のプレイリストを選択すると、USBメモリーに保存された全ての音声ファイルがFILESリストに一覧で表示されます。

® FILESリスト

PLAYLISTSで選択したプレイリストに保存されている音声ファイルが一覧で表示されます。現在選択されている音声ファイルは赤字で表示されます。
「備考」・ファイル名に半角英数以外の文字を使用すると文字化けします。

⑨ MANUAL/AUTOボタン

再生モードを切り替えます。MANUAL(手動)モードでは現在の音声ファイルの再生が終了すると再生が停止します。AUTO(自動)モードではプレイリスト内の音声ファイルを自動で連続再生します。



⑩ MUTE FXボタン

全てのFXリターンのミュートのON/OFFを一括で切り替えます。

① MUTE ALLボタン

全てのミュートのON/OFFを一括で切り替えます。

12 CUEボタン

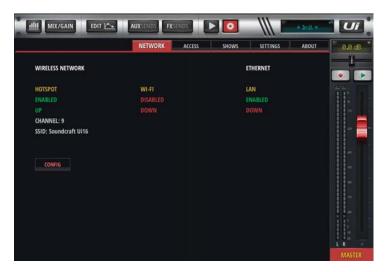
このボタンをONにして再生停止中に再生/一時停止ボタンを押すと、FILESリストの1つ前の音声ファイルを再生します。MASTER表示エリアのショートカットボタンを「PLAY」に割り当てることで、メディアページを開くことなく次の曲を再生できます。

設定ページの各部の名称と機能

設定ページには、ネットワークの設定を行うNETWORKタブ、アクセス制限の設定を行うACCESSタブ、ショー/スナップショットの管理を行うSHOWSタブ、システムの設定を行うSETTINGSタブ、モデル名やシリアルナンバー、ファームウェアのバージョンを表示するABOUTタブがあります。設定ページの各部の名称と機能は以下の通りです。

NETWORKタブ

本機と端末を接続するための、ネットワークに関する設定の確認や変更を行います。本機と端末との接続方法は3通りあり、本機に内蔵されたWi-Fi アクセスポイント(ホットスポット)に接続するか、外部のネットワーク機器を経由して接続するか、有線LAN(イーサネット)で接続するかを選択できます。NETWORKタブのHOTSPOTでは内蔵のWi-Fiアクセスポイント、Wi-Fiでは外部ネットワーク機器、LANでは有線LANを使用した接続に関する現在の設定状態を確認可能です。



設定を変更する場合は、CONFIGボタンを選択し、ユーザー名とパスワードを入力してUi Configページにログインする必要があります。工場出荷時のユーザー名およびパスワードはどちらも「admin」です。Ui Configページではパスワードの変更も行えます。

Ui Configページには、内蔵のWi-Fiアクセスポイントで接続する場合の設定を行う「Hotspot Configurationページ」、外部ネットワーク機器で接続する場合の設定を行う「Wi-Fi Configurationページ」、有線LANで接続する場合の設定を行う「LAN Configurationページ」、Ui Configページにログインする際のパスワードの変更する「Administrator Passwordページ」、現在のネットワークに関する設定の情報を表示する「Network Stateページ」があり、ページ上部で切り替え可能です。それぞれのページの詳細は以下の通りです。



- ・Ui Configページで変更した設定を有効にするためには、それぞれのページ下部にあるSave/Updateボタンを押して設定を保存し、電源スイッチで本機を再起動させる必要があります。
- ・「内蔵Wi-Fiアクセスポイントでの接続」「外部ネットワーク機器経由での接続」「有線LANでの接続」の全てを無効にすると、本機へのアクセスができなくなります。万が一無効にしてしまった場合は、ネットワーキングリセット(P.50参照)を行う必要があります。ご注意ください。
- 備者 ・それぞれのページ下部にあるRerurn/Exitボタンを押すと操作画面に戻ります。



■ Hotspot Configurationページ

内蔵のWi-Fiアクセスポイントで接続する場合の設定を行います。

HOTSPOT Enabled/Disabledボタン

内蔵のWi-Fiアクセスポイントによる接続の有効/無効を切り替えます。Enabledにすると有効になります。

SSIDテキストボックス

アクセスポイント名を表示/変更します。デフォルトは「Soundcraft Ui12」または「Soundcraft Ui16」です。変更したい場合は新しい名前を入力してください。

SSID Broadcast Enabled/Disabledボタン

内蔵のWi-FiアクセスポイントのSSIDブロードキャストを有効/無効にします。Enabledにすると有効になります。

Wireless Regulatory Domainプルダウンメニュー

使用地域を選択します。「Japan」を選択してください。

Channelプルダウンメニュー

データの送受信を行う周波数(チャンネル)を選択します。周囲で使われているネットワーク機器と重複しない周波数を選択することで、ネットワークの切断リスクを低減できます。



・Wi-Fi Configurationページで外部ネットワーク機器との接続を有効にしている場合、 本機がデータの送受信を行う周波数は外部ネットワーク機器に依存し、Channelプル ダウンメニューでの設定は無効になります。

Security None/WPA2ボタン

端末を内蔵のWi-Fiアクセスポイントに接続する際に、パスワードの入力を求めるか求めないかを選択します。パスワードの入力を求める場合は、WPA2を選択してパスワードを設定してください。

Reset Defaultボタン

設定を工場出荷時の状態に戻します。

Hotspot Configuration Wi-Fi Configuration LAN Configuration Administrator Password Network State Please power cycle the mixer after changing the parameters on this page. Hotspot Enoble the Unit Internal Hotspot (AP) Finaled Debtool State State State State State Chandies Chandies

■ Wi-Fi Configurationページ

外部ネットワーク機器で接続する場合の設定を行います。外部ネットワーク機器は本機左側面パネルのETHERNET端子(P.9参照)に接続してください。

Wi-Fi Fnabled/Disabledボタン

外部ネットワーク機器による接続の有効/無効を切り替えます。Enabledにすると有効になります。

SSIDテキストボックス

外部ネットワーク機器のネットワーク名を入力します。

Passwordテキストボックス

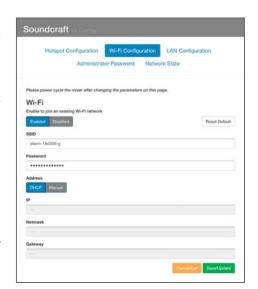
外部ネットワーク機器のパスワード(暗号化キー)を入力します。

Address DHCP/Manualボタン

IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイの設定方法を選択します。DHCP機能を利用して自動で設定する場合はDHCP、固定IPアドレスを利用して手動で設定する場合はManualを選択してください。通常は設定が簡単に行えるDHCP機能の利用をお勧めします。IPアドレスを管理している場合は、固定IPアドレスで設定してください。



・固定IPアドレスで設定する際、どのIPアドレスを使用するかはネットワーク管理者にご相談ください。不適切なIPアドレスを使用すると、ネットワーク接続の不具合の原因となります。また、IPアドレスの第4クオテットにOや255は使用しないでください。





IPテキストボックス

Address DHCP/ManualボタンをManualに設定した場合にIPアドレスを入力します。

Netmaskテキストボックス

Address DHCP/ManualボタンをManualに設定した場合にサブネットマスクを入力します。

Gatewayテキストボックス

Address DHCP/ManualボタンをManualに設定した場合にゲートウェイを入力します。

Reset Defaultボタン

設定を工場出荷時の状態に戻します。

■ LAN Configurationページ

有線LANで接続する場合の設定を行います。端末は本機左側面パネルのETHERNET端子(P.9参照)に接続してください。

LAN Enabled/Disabledボタン

有線LANによる接続の有効/無効を切り替えます。Enabledにすると有効になります。

Address DHCP/Manualボタン

IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイの設定方法を選択します。通常は、固定IPアドレスを利用して手動で設定するManualを選択してください。Manualを選択した場合、工場出荷時の本機のIPアドレスは「10.10.2.1」、サブネットマスクは「255.255.0」です。有線LANで接続するPCのIPアドレスは「10.10.2.2」、サブネットマスクは「255.255.0」に設定してください。



・工場出荷時のIPアドレスを変更する際、どのIPアドレスを使用するかはネットワーク管理者にご相談ください。不適切なIPアドレスを使用すると、ネットワーク接続の不具合の原因となります。また、IPアドレスの第4クオテットに0や255は使用しないでください。

IPテキストボックス

Address DHCP/ManualボタンをManualに設定した場合にIPアドレスを入力します。

Netmaskテキストボックス

Address DHCP/ManualボタンをManualに設定した場合にサブネットマスクを入力します。

Gatewayテキストボックス

Address DHCP/ManualボタンをManualに設定した場合にゲートウェイを入力します。

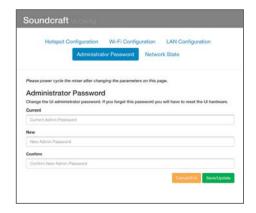
Reset Defaultボタン

設定を工場出荷時の状態に戻します。

Hotspot Configuration Wi-Fi Configuration Administrator Password Network State Please power cycle the miser after charging the parameters on this page. LAN Enable the Ui's ethernet pot Enable Ui's ethernet pot Oncode Unabled Address DHOP Manual IP Reset Detault Address Cateway Cateway Enable the Cateway

■ Administrator Passwordページ

Ui Configページにログインするためのパスワードを変更します。Currentに現在のパスワード、NewとConfirmに新しいパスワードを入力してください。



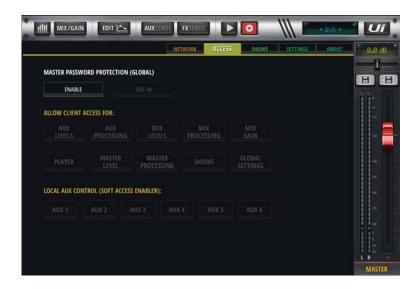
■ Network Stateページ

現在のネットワーク設定に関する情報が表示されます。



ACCESSタブ

意図しない設定の変更を防ぐために、使用者がアクセスできる項目に制限を掛けます。設定方法は以下の通りです。



- 1. ENABLE/DISABLEボタンを押すとパスワードの入力ウィンドウが表示されるので、任意のパスワードを入力してOKを押してください。
- 2.「ALLOW CLIENT ACCESS FOR:」の下にあるボタンからからアクセスを許可する項目を選びます。AUX LEVELSボタンやAUX PROCESSINGボタンを押すと、「LOCAL AUX CONTROL(SOFT ACCESS ENABLER):」の下にあるボタンも選択可能になります。
- 3. LOG OUT/LOG INボタンを押すと2で選択した以外の項目にロックが掛かり操作できなくなります。



- ・ENABLE/DISABLEボタンは押すたびに、ENABLEとDISABLEが切り替わります。LOG OUT/LOG INボタンも同様です。
- ・ロックを解除するには、ENABLE/DISABLEボタンを押して1で設定したパスワードを入力しOKを押してください。アクセスを許可する項目を変更したい場合は、LOG OUT/LOG INボタンを押して1で設定したパスワードを入力しOKを押してください。「ALLOW CLIENT ACCESS FOR:」の下にあるボタンが操作できるようになります。

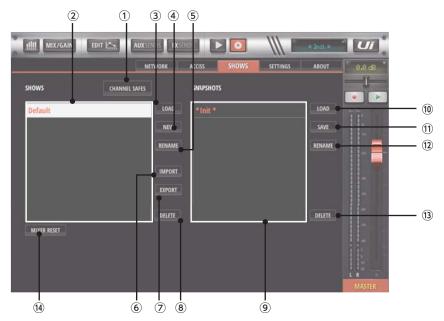


SHOWSタブ

ショーとスナップショットの呼び出し、保存を行います。スナップショットは、設定ページの項目以外の全ての状態を保存したもので、通常は曲ごとに1つのスナップショットを作成します。進行に合わせて、あらかじめ保存したスナップショットを呼び出していくことで、設定の変更が簡単に行えます。ショーはスナップショットの集合体で、複数のショーをまとめて保存できるので、演目の変更の際に便利です。ショーとスナップショットはミキサー本体に保存されます。

備考

- ・ナビゲーション部(P.13参照)のショー/スナップショットボタンを使えば、ショー、スナップショットの呼び出しが素早く行えます。
- ・工場出荷時は、「Default」ショーの中の「* Init *」スナップショットが呼び出されている状態です。ユーザー設定は新しいショーとスナップショットに保存し、「Default」ショーと「* Init *」スナップショットは、工場出荷時の状態に素早く戻すための手段として、設定を変更せずそのまま保存しておくことをお勧めします。



① CHANNEL SAFESボタン

同一のショーに保存されているスナップショットの切り替え時に、特定の入出力のパラメーターが変更されないように除外します。設定したいショーをSHOWSリストから選択した後、CHANNEL SAFESボタンを押すと設定画面が表示されるので、除外したい入出力を選択して、最後にSAVE TO SHOWボタンを押してください。設定がショーに保存されます。再びCHANNEL SAFESボタンを押すと元の画面に戻ります。RESETボタンで設定の一括リセットができます。

② SHOWSリスト

保存されているショーが一覧で表示されます。赤字で表示されているのが現在呼び出されているショーです。リストの中のショーを選択すると、そのショーに保存されているスナップショットがSNAPSHOTSリストに表示されます。リストから直接ショーを呼び出したい場合は、呼び出したいショーを2回連続で素早く押してください。ショーが呼び出されるのと同時にSNAPSHOTSリストに表示されている一番上のスナップショットも自動的に呼び出されます。

③ SHOWS LOADボタン

ショーを呼び出します。呼び出したいショーをSHOWSリストから選択した後、このボタンを押してください。ショーが呼び出されるのと同時にSNAPSHOTSリストの1番上に表示されているスナップショットも自動的に呼び出されます。

④ SHOWS NEWボタン

新規でショーを作成します。ボタンを押して名前を入力し、OKボタンを押してください。SHOWSリストに追加されます。既にSHOWSリストに同じ名前のショーがある場合、エラーメッセージが表示されて作成できません。

⑤ SHOWS RENAMEボタン

ショーの名前を変更します。名前を変更したいショーをSHOWSリストから選択した後、このボタンを押してください。新しい名前を入力しOKボタンを押せば名前が変更されます。既にSHOWSリストに同じ名前のショーがある場合、エラーメッセージが表示されて変更できません。

⑥ SHOWS IMPORTボタン

USBメモリーに保存されているショーを取り込みます。ボタンを押すと接続されている全てのUSBメモリーに保存されているショーが一覧で表示されます。取り込みたいショーを選択しOKボタンを押してください。選択したショーがSHOWSリストに追加されます。既にSHOWSリストに同じ名前のショーがある場合は上書きされます。



⑦ SHOWS EXPORTボタン

USBメモリーにショーを保存します。保存したいショーをSHOWSリストから選択した後、このボタンを押すと、接続されている全てのUSBメモ リーが一覧で表示されます。保存したいUSBメモリーを選択し、OKボタンを押してください。選択したショーがUSBメモリーに保存されます。

® SHOWS DFI FTFボタン

ショーを削除します。削除したいショーをSHOWSリストから選択した後、このボタンを押してください。OKボタンを押せば削除されます。

⑨ SNAPSHOTSリスト

保存されているスナップショットが一覧で表示されます。赤字で表示されているのが現在呼び出されているスナップショットです。リストから直接 スナップショットを呼び出したい場合は、呼び出したいスナップショットを2回連続で素早く押してください。

⑩ SNAPSHOTS LOADボタン

スナップショットを呼び出します。呼び出したいスナップショットをSNAPSHOTSリストから選択した後、このボタンを押してください。

① SNAPSHOTS SAVEボタン

現在の設定をスナップショットとして保存します。ボタンを押して名前を入力し、OKボタンを押してください。SNAPSHOTSリストに追加されま す。既にSNAPSHOTSリストに同じ名前のスナップショットがある場合、上書きを警告するメッセージが表示されます。上書きする場合はOKボ タンを押してください。

⁽¹²⁾ SNAPSHOTS RENAMEボタン

スナップショットの名前を変更します。名前を変更したいスナップショットをSNAPSHOTSリストから選択した後、このボタンを押してください。 新しい名前を入力しOKボタンを押せば名前が変更されます。既にSNAPSHOTSリストに同じ名前のスナップショットがある場合、エラーメッ セージが表示されて変更できません。

③ SNAPSHOTS DELETEボタン

スナップショットを削除します。削除したいスナップショットをSNAPSHOTSリストから選択した後、このボタンを押してください。OKボタンを押 せば削除されます。

備考・スナップショットの削除は、現在呼び出されているショー内のスナップショットに対してのみ行えます。呼び出されていないショーのスナップショットを 削除しようとしても、エラーメッセージが表示されて削除できません。

14 MIXER RESETボタン

一部を除き、設定を工場出荷時の状態にリセットします。ボタンを押すと確認メッセージが表示されるので、リセットする場合はOKボタンを押して ください。MIXER RESETボタンでリセットされない項目は以下の通りです。全ての設定をリセットしたい場合はフルリセット(P.50参照)を行う 必要があります。

- ・ビューグループの設定
- ・設定ページ → NETWORKタブ → Configの設定(ネットワーク設定)
- ・設定ページ → ACCESSタブ → LOCAL AUX CONTROLの設定
- ・設定ページ → SETTINGSタブ → GUI PERFORMANCEの設定
- ・設定ページ → SETTINGSタブ → LOCALの設定
- ・設定ページ → SETTINGSタブ → BUTTON FUNCTIONの設定
- ・設定ページ → SETTINGSタブ → SYNC SELECTED CHANNELの設定
- ・設定ページ → SETTINGSタブ → LANGUAGEの設定



SETTINGSタブ

各種設定を行います。

■ GLOBAL

HEADPHONES OUT [MASTER/SOLO, AUX]

ヘッドホン出力端子から出力される信号を切り替えます。MASTER/SOLOを選択するとモニター信号(通常はMIX L/R出力端子と同じ信号、SOLOボタン選択時にはソロバスの信号)が出力されます。AUXを選択すると、ヘッドホン出力がAUX出力に切り替わり、Ui12ではAUX3/4、Ui16ではAUX5/6の信号が出力されます。

SOLO ROUTING

[HEADPHONES, MASTER + HP]

HEADPHONES OUTでMASTER/SOLO選択時に表示され、SOLOボタン選択時にソロバスの信号をどこに出力するか切り替えます。 HEADPHONESを選択するとヘッドホン出力端子からのみ出力されます。 MASTER + HPを選択するとヘッドホン出力に加えてMIX L/R MASTER出力端子からも出力されます。

[DISABLED, MASTER]

HEADPHONES OUTでAUX選択時に表示され、SOLOボタン選択時にソロバスの信号をMIX L/R MASTER出力端子から出力するか、しないかを切り替えます。MASTERを選択するとMIX L/R MASTER出力端子から出力されます。DISABLEDを選択するとソロバスの信号はどこからも出力されません。

SOLO MODE [SINGLE, MULTIPLE]

SOLOボタンの自動キャンセル機能を有効にするかを設定します。SINGLEを選択するとキャンセル機能が有効になり、SOLOボタンが押されている時に他のSOLOボタンを押した場合、以前押されていたSOLOボタンは自動的に解除されます。MULTIPLEを選択するとキャンセル機能が無効になり、SOLOボタンが押されている時に他のSOLOボタンを押した場合、解除されずに両方の信号がソロバスに出力されます。

SOLO TYPE [AFL, PFL]

ソロバスに送り出す信号のアフターフェーダー/プリフェーダーを切り替えます。AFLを選択するとSOLOボタンを押した入出力フェーダーのアフターフェーダー(フェーダー通過後)の信号を出力します。PFLを選択するとSOLOボタンを押した入出力フェーダーのプリフェーダー(フェーダー通過前)の信号を出力します。

RECORD MODE [32bit, 24bit, 16bit]

USBメモリーでMIX L/Rバスの信号を録音する際のサンプリングレートを設定します。ビット数が大きければ大きいほど高音質で録音できますが、データ量が大きくなります。

AUX SEND MUTE INHERITANCE (OFF, ON)

MIXページのMUTEボタンと、AUX SENDSページのセンドフェーダー部にあるMUTEボタンを連動して動作させるかを設定します。ONにすると連動して動作し、MIXページのMUTEボタンをONにすると、センドフェーダー部のMUTEボタンもONになります。

GLOBAL AUX SEND POINT(PRE PROCESSING, POST PROCESSING)

入力からAUXバスに送る信号を選択します。PRE PROCESSINGを選択するとEQタブやDYNタブで行う信号処理の通過前の信号が、POST PROCESSINGを選択すると通過後の信号が出力されます。

■ GUI PERFORMANCE

FRAME RATE [FULL, 1/2, 1/3, 1/4]

グラフィック表示の滑らかさに影響を与えるフレームレートを設定します。使用する端末に合わせて設定してください。

DISABLE RETINA (OFF, ON)

端末のディスプレイの解像度に合わせて、表示される制御画面の画質を変更します。解像度の高いディスプレイを搭載した端末を使用している場合はONにしてください。ON/OFFの切り替えには画面の更新が必要です。ON/OFFを切り替えると画面の更新を確認するウィンドウが現れます。OKボタンを押すと画面が更新されて変更が反映されます。

DISABLE RESCALING [OFF, ON]

画面のリスケーリングを有効/無効にします。端末の処理速度が低い場合はOFFにしてください。ON/OFFの切り替えには画面の更新が必要です。ON/OFFを切り替えると画面の更新を確認するウィンドウが現れます。OKボタンを押すと画面が更新されて変更が反映されます。

DISABLE LED METERS [OFF, ON]

全てのレベルメーターでのメーター表示を非表示にして、CPUの使用率を下げます。CPUに負担が掛かるメーター表示は、端末の動作を不安定にする可能性があります。端末の処理速度が低い場合はONにしてください。



■ LOCAL

MASTER LOCK [OFF, ON]

MASTER表示エリアのフェーダーをロックします。ロックするとフェーダーの下部に鍵のマークが表示されます。フェーダーを長押しするとロックが一時的に解除できます。フェーダー以外のパラメーターは変更可能です。

HOLD FADER FOR FINE TUNING [OFF, ON]

フェーダーの微調整を行うFINE TUNINGモードを有効/無効にします。ONを選択すると有効になり、フェーダーを長押しすることで微調整ができるようになります。FINE TUNINGモードが有効の時、長押しするとフェーダー周囲が青く光ります。MASTER LOCKをONにしている場合は、MASTER表示エリアではFINE TUNINGモードは無効になります。

METER QUANTISATION (OFF, ON)

レベルメーターの表示を連続またはセグメントに切り替えます。OFFを選択すると連続表示、ONを選択するとセグメント表示(LEDバーグラフ) になります。

FADER GLOW [OFF, THIN, NORM]

フェーダーグロウ機能は、フェーダーに割り当てられている機能に応じてフェーダーの溝の色が変化する、Soundcraftデジタル・ミキサー独自の機能です。FADER GLOWでは、その表示を変更します。OFFを選択するとフェーダーグロウ機能が無効になります。THINやNORMを選択するとフェーダーグロウ機能がONになりますが、THINではフェーダーの溝の色がNORMより細いラインで表示されます。

DISABLE VU INPUT LEVEL [OFF, ON]

本機のレベルメーターは2色で表示され、青色のメーターは入力レベルを、緑〜黄〜赤色のメーターはフェーダー通過後の出力レベルを表示します。DISABLE VU INPUT LEVELではその青色メーターの表示、非表示を切り替えます。ONにすると非表示になります。

DISABLE VU PEAK [OFF, ON]

レベルメーターのピークの表示、非表示を切り替えます。ONにすると非表示になります。

HIDE COMP/GATE (OFF, ON)

ゲートインジケーター、ゲインリダクションメーターの表示、非表示を切り替えます。ONにすると非表示になります。ON/OFFの切り替えには画面の更新が必要です。ON/OFFを切り替えると画面の更新を確認するウィンドウが現れます。OKボタンを押すと画面が更新されて変更が反映されます。

DIM LED METERS (OFF, ON)

レベルメーターの輝度を調整します。ONにすると輝度が下がります。

PIN SLIDEOUT IN MIX MODE [OFF, ON]

MIXページでスライドアウトパネルを常時表示にします。ONにすると、常にスライドアウトパネルが開いた状態でMIXページが表示されます。

PIN SO FOR AUX/FX SENDS [OFF, ON]

AUX SENDSページとFX SENDSページでスライドアウトパネルを常時表示にします。ONにすると、常にスライドアウトパネルが開いた状態でAUX SENDSページとFX SENDSページが表示されます。

KINETIC SCROLL [OFF, ON]

画面を横にスクロールさせる際、操作後にスクロールをすぐ止めるか、惰性で少し動かすか切り替えます。ONにすると、操作終了後も惰性で少し動きます。

MIXER SCROLLING [1FINGER, 2FINGERS]

画面を横にスクロールさせる際、指1本で操作するか、2本で操作するか切り替えます。

PATTERNED BACKGROUND [OFF, ON]

各ページ背面の黒い壁紙を、模様無しにするか、模様有りにするか切り替えます。ONにすると模様が表示されます。ON/OFFの切り替えには画面の更新が必要です。ON/OFFを切り替えると画面の更新を確認するウィンドウが現れます。OKボタンを押すと画面が更新されて変更が反映されます。

MOREME PORTRAIT MODE [OFF, ON]

端末を縦向きにしたときに、通常の操作画面を表示するか、MORE MEの制御ページを表示するか選択します。ONにするとMORE MEの制御ページが表示されます。



・通常の操作画面を縦向きに表示した場合、操作できる項目は大幅に制限されます。



■ UTILITY

IMPORT ALL PRESETS

USBメモリーに保存されている、USERプリセットを取り込みます。ボタンを押すと、取り込むかどうかを確認するメッセージが表示されるので OKボタンを押してください。接続されているUSBメモリーに保存されている全てのUSERプリセットが取り込まれます。

EXPORT ALL PRESETS

USBメモリーに、全てのUSERプリセットを保存します。このボタンを押すと、保存可能なUSBメモリーが一覧で表示されます。保存したいUSBメモリーを選択し、OKボタンを押してください。

LOCAL SETTINGS PRESETS

SETTINGSタブのGLOBAL以外の項目の設定内容をUSERプリセットとして保存し、呼び出します。呼び出す場合は、呼び出したいプリセットを選択しLOADボタンを押してください。保存する場合は、SAVEボタンを押してプリセット名を入力しOKボタンを押してください。プリセットは、RENAMEボタンで名前の変更が、DELETEボタンで削除ができます。

RESET LOCAL SETTINGS

SETTINGSタブのGLOBAL以外の項目の設定内容を工場出荷時の状態に戻します。戻す場合は確認画面でOKボタンを押すと、画面が自動更新されて工場出荷時の状態に戻ります。

■ PEDAL FUNCTION

FOOTSWITCH端子に接続したフットスイッチで操作する機能を設定します。設定可能な機能は以下の通りです。

MUTE FX: 全てのFXリターンのミュートの一括ON/OFF

MUTE ALL: 全てのミュートの一括ON/OFF PLAY: USBメモリーの音声ファイルの再生/停止

RECORD: MIX L/Rバスの信号のUSBメモリーへの録音/停止

■ SYNC SELECTED CHANNEL

端末の同期を設定します。この機能をONにして複数の端末を同期させた場合、1つの入出力の異なる情報をそれぞれの端末で同時に表示できるので、設定が効率的に行えます。例えば、1台の端末でMIXページを開き、もう1台の端末でEDITページのEQタブを開くと、MIXページでチャンネルを切り替えるごとにEDITページのEQタブもそのチャンネルの設定ページに切り替わります。設定方法は以下の通りです。

- 1. ON/OFFボタンをONにします。
- 2. SYNC IDを押してIDを入力し、OKボタンを押します。
- 3. 同期したい端末で1と2を繰り返します。

■ BUTTON FUNCTION [F1、F2]

MASTER表示エリアにある、ショートカットボタンに割り当てる機能を設定します。割り当てたい機能を選択すると、ボタンのイラストが変わり、その機能を呼び出すためのショートカットボタンに変わります。設定可能な機能は以下の通りです。

NEW SNAPSHOT: スナップショットへの新規保存

UPDATE CURRENT SNAPSHOT: 現在再現されているスナップショットへの上書き NEXT SNAPSHOT: 現在再現されているスナップショットの次のスナップショットを呼び出し PREVIOUS SNAPSHOT: 現在再現されているスナップショットの前のスナップショットを呼び出し

PLAY: USBメモリーの音声ファイルの再生/停止

RECORD: MIX L/Rバスの信号のUSBメモリーへの録音/停止

LANGUAGE

表示言語を英語(ENGLISH)または中国語(中文)に切り替えます。表示したい言語を選択しOKボタンを押すと、画面が自動更新されて言語が切り替わります。



ABOUTタブ

モデル名、シリアル番号、ファームウェアのバージョン、ユニークID(ハードウェア内部の識別番号)が表示されます。



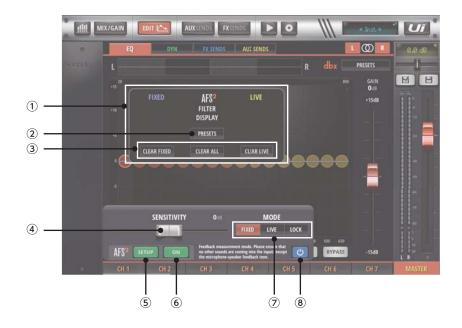


AFS² ハウリング・サプレッサー

AFS²ハウリング・サプレッサー(以下AFS²)は、12個のノッチフィルターを使用してハウリングを検知・除去するハウリング・サプレッサーで、MIX L/R MASTER出力とAUX MASTER出力に搭載されています。AFS²には固定フィルターを使用するFIXEDモードとライブフィルターを使用する LIVEモード、現在のフィルターの設定状態を維持するLOCKモードの3種類の動作モードがあります。FIXEDモードはハウリングマージンを稼ぐために本番前に使用します。LIVEモードはフィルターの配置を絶えず更新するもので本番中に使用します。ライブフィルターは固定フィルターより高機能で、システム運用中にハウリングを検知し、状況の変化に応じてフィルターを配置してハウリングを防止します。さらに、不要になったライブフィルターを自動的に解除することで意図しない音質の変化を防止すると同時に、常に使用可能なライブフィルターの個数を確保できます。通常は、本番前にFIXEDモードでセットアップし、本番中はLIVEモードに切り替えます。12個のノッチフィルターのうち、6個が固定フィルター、6個がライブフィルターとして使われます。

AFS²設定画面の各部の名称と機能

AFS²の設定画面は、EDITページのEQ(グラフィックEQ)タブ(P.23参照)にあるSETUPボタンを選択すると開きます。設定画面の各部の名称と機能は以下の通りです。



① フィルターディスプレイ

ノッチフィルターの設定状況を表示します。左側の「FIXED」の下には固定フィルター、右側の「LIVE」の下にはライブフィルターの状況が表示されます。

② PRESETSボタン

AFS²に関するプリセットの呼び出しや保存を行います。入力信号に合わせたプリセットが保存されているFACTORYプリセット(2016年9月現在ではデータなし)と、ユーザー独自の設定を保存するUSERプリセットがあります。呼び出す場合は、呼び出したいプリセットを選択しLOADボタンを押してください。保存する場合は、SAVEボタンを押してプリセット名を入力しOKボタンを押してください。USERプリセットに保存されます。USERプリセットは、RENAMEボタンで名前の変更が、DELETEボタンで削除ができます。

③ CLEAR FIXED/ALL/LIVEボタン

フィルターを解除します。CLEAR FIXEDボタンを押すと、現在設定されている固定フィルターが解除されます。CLEAR LIVEボタンを押すと、現在設定されているライブフィルターが解除されます。CLEAR ALLボタン押すと、現在設定されている全てのフィルターが解除されます。通常はセットアップ前に全てのフィルターを解除する必要があります。

④ SENSITIVITYスライドバー

ハウリングを検知する精度を調整します。バーを右に動かすに従ってハウリングの検知精度が高くなりハウリングを素早く除去することが可能になりますが、精度が高いと音質に影響が出る可能性があります。



⑤ AFS² SETUPボタン

AFS²ハウリング・サプレッサーのセットアップ画面を開きます。

⑥ AFS² ONボタン

AFS²ハウリング·サプレッサーのON/OFFを切り替えます。

⑦ FIXED/LIVE/LOCKボタン

動作モードを選択します。本番前に固定フィルターでセットアップする場合はFIXEDボタンを選択してFIXEDモードに切り替えてください。本番中にライブフィルターを使用する場合はLIVEボタンを選択してLIVEモードに切り替えてください。固定/ライブに関わらず現在のフィルターの設定状態を維持したい場合は、LOCKボタンを選択してLOCKモードに切り替えてください。

⑧ バイパスボタン

AFS²をバイパスします。FIXEDモードのセットアップ中はバイパスする必要があります。

固定フィルターのセットアップ手順

固定フィルターのセットアップは、本番前に他のシステムEQを全て設定し終えてから実行します。セットアップの手順は以下の通りです。

- 1. SETUPボタンを押して、AFS²のセットアップ・ウィンドウを開きます。
- 2. CLEAR ALLボタンを押して設定されている全てのフィルターを解除します。
- 3. バイパスボタンを押してAFS²をバイパスに設定します。
- 4. 本番で使用する全てのマイクロホンを適切な位置に設置して接続し、サウンドチェックとラフミックスを行ってください。
- 5. MIX L/R MASTER出力またはAUX MASTER出力のフェーダー位置をメモします。
- 6. ゲート(内蔵プロセッサーを含む)を使用している場合はバイパスします。
- 7. マイクロホンが音を拾わないように演奏を止めてもらい、出力フェーダーを一番下まで下げます。
- 8. FIXEDボタンを押して、FIXEDモードに切り替えます。
- 9. バイパスボタンを押してバイパスを解除し、5のターゲットゲインに達するか、全ての固定フィルターの配置が完了するまで、徐々に出力フェーダーを上げていきます。
- 10. 出力フェーダーを元のレベルに戻します。
- 11. LIVEボタンを押して、LIVEモードに切り替えます。これで固定フィルターのセットアップは完了です。本番中はライブフィルターでハウリングをリアルタイムに抑制できます。



Lexicon PRO エフェクト・プロセッサー

Uil2は3系統、Uil6は4系統のLexicon PRO製工フェクト・プロセッサーが内蔵されています。各プロセッサーは専用のバスを装備し、全ての入力の信号を自由に送ることができます。処理後の信号はFXリターンとして入力に立ち上がるため、全てのバスに出力可能です。FXリターンのミュートのON/OFFはフットスイッチでも操作できます。

Uil2はリバーブ、ディレイ、コーラスのプロセッサーが利用可能です。Uil6はリバーブ、ディレイ、コーラスに加えて、ルームアンビエンスまたは2つ目のディレイとして使用可能なプロセッサーも備えています。各プロセッサーの設定は、EDITページのFX SENDSタブにある、Lexicon PRO エフェクト・プロセッサー制御パネルで行います。制御パネルの詳細は以下の通りです。

REVERB

リバーブに関する設定を行います。



① ディスプレイ

現在再現されているプリセット名を表示します。

② PRESETSボタン

リバーブに関するプリセットの呼び出しや保存を行います。得られる効果に合わせたプリセットが保存されているFACTORYプリセットと、ユーザー独自の設定を保存するUSERプリセットがあります。呼び出す場合は、呼び出したいプリセットを選択し「LOAD」を押してください。保存する場合は、「SAVE」を押してプリセット名を入力し「OK」を押してください。USERプリセットに保存されます。USERプリセットは、「RENAME」で名前の変更が、「DELETE」で削除ができます。

③ REVERB TIMEフェーダー

残響音が消えるまでの時間を調整します。現在の設定値は上部のディスプレイに表示されます。

④ HF DAMPINGフェーダー

高域の減衰量を調整します。現在の設定値は上部のディスプレイに表示されます。

⑤ BASS GAINフェーダー

低域のゲインを調整します。現在の設定値は上部のディスプレイに表示されます。

⑥ LOWPASS FILTERフェーダー

ローパスフィルターの周波数を調整します。現在の設定値は上部のディスプレイに表示されます。

⑦ HIGHPASS FILTERフェーダー

ハイパスフィルターの周波数を調整します。現在の設定値は上部のディスプレイに表示されます。



DELAY

ディレイに関する設定を行います。



① ディスプレイ

現在再現されているプリセット名を表示します。

② TAPボタン

曲に合わせて押すことでテンポ(BPM)を変更できます。現在の設定値は、BPMディスプレイやナビゲーション部のショー/スナップショットボタンに表示されます。ボタンを長押しすると、テンポをキーボードで入力できます。

③ PRESETSボタン

ディレイに関するプリセットの呼び出しや保存を行います。得られる効果に合わせたプリセットが保存されているFACTORYプリセットと、ユーザー独自の設定を保存するUSERプリセットがあります。呼び出す場合は、呼び出したいプリセットを選択し「LOAD」を押してください。保存する場合は、「SAVE」を押してプリセット名を入力し「OK」を押してください。USERプリセットに保存されます。USERプリセットは、「RENAME」で名前の変更が、「DELETE」で削除ができます。

④ DELAY LENGTHフェーダー

ディレイタイムを調整します。現在の設定値は上部のディスプレイに表示されます。音符の長さでディレイタイムを設定したい場合は、LENGTH SUBDIVISIONフェーダーを使用してください。

⑤ LENGTH SUBDIVISIONフェーダー

ディレイタイムを曲の音符の長さから調整します。上部のディスプレイを押すと、選択可能な音符のリストが表示されます。フェーダーを上下するとディレイタイムが微調整できます。直接ディレイタイムを設定したい場合は、DELAY LENGTHフェーダーを使用してください。

⑥ FEEDBACK AMOUNTフェーダー

ディレイ音を繰り返す回数(ディレイ音の音量の減衰率)を調整します。現在の設定値は上部のディスプレイに表示されます。

⑦ LOWPASS FILTERフェーダー

ローパスフィルターの周波数を調整します。現在の設定値は上部のディスプレイに表示されます。

® BPMディスプレイ

現在設定されている曲のテンポ(BPM)を表示します。



CHORUS

コーラスに関する設定を行います。



① ディスプレイ

現在再現されているプリセット名を表示します。

② PRESETSボタン

コーラスに関するプリセットの呼び出しや保存を行います。得られる効果に合わせたプリセットが保存されているFACTORYプリセットと、ユーザー独自の設定を保存するUSERプリセットがあります。呼び出す場合は、呼び出したいプリセットを選択し「LOAD」を押してください。保存する場合は、「SAVE」を押してプリセット名を入力し「OK」を押してください。USERプリセットに保存されます。USERプリセットは、「RENAME」で名前の変更が、「DELETE」で削除ができます。

③ DETUNEフェーダー

音の揺れの大きさ(ピッチ変調の深さ)を設定します。現在の設定値は上部のディスプレイに表示されます。

④ DENSITYフェーダー

音に厚みを出す効果の密度を調整します。現在の設定値は上部のディスプレイに表示されます。

⑤ LOWPASS FILTERフェーダー

ローパスフィルターの周波数を調整します。現在の設定値は上部のディスプレイに表示されます。



ROOM

ルームアンビエンスに関する設定を行います。



① ディスプレイ

現在再現されているプリセット名を表示します。

② PRESETSボタン

ルームアンビエンスに関するプリセットの呼び出しや保存を行います。得られる効果に合わせたプリセットが保存されているFACTORYプリセットと、ユーザー独自の設定を保存するUSERプリセットがあります。呼び出す場合は、呼び出したいプリセットを選択し「LOAD」を押してください。保存する場合は、「SAVE」を押してプリセット名を入力し「OK」を押してください。USERプリセットに保存されます。USERプリセットは、「RENAME」で名前の変更が、「DELETE」で削除ができます。

③ REVERB TIMEフェーダー

残響音が消えるまでの時間を調整します。現在の設定値は上部のディスプレイに表示されます。

④ HF DAMPINGフェーダー

高域の減衰量を調整します。現在の設定値は上部のディスプレイに表示されます。

⑤ BASS GAINフェーダー

低域のゲインを調整します。現在の設定値は上部のディスプレイに表示されます。

⑥ LOWPASS FILTERフェーダー

ローパスフィルターの周波数を調整します。現在の設定値は上部のディスプレイに表示されます。

① HIGHPASS FILTERフェーダー

ハイパスフィルターの周波数を調整します。現在の設定値は上部のディスプレイに表示されます。



MORE ME

MORE MEを使用すれば、AUX MASTER出力から出力されるモニター信号のミックスバランスを、1本の大型フェーダーで簡単に調整できます。 本番中に、演奏者自身が自分の端末でミックスバランスを変えたい場合などに便利です。



MORE MEの制御画面を開くには、スライドアウトパネルのMORE MEボタンを選択します。設定ページのSETTINGSタブ(P.39参照)にある MOREME PORTRAIT MODEをONにすることで、端末を縦向きにしたときに表示させることも可能です。MORE MEの使用方法は以下の通りです。

- 1. AUXを使用してモニターミックスを作成します。
- 2. 本番中にミックスバランスを調整したい入力のサブメニューからASSIGN MEを選択して、MORE MEに割り当てます。複数の入力を割り当てることができます。
- 3. モニターミックスを作成したAUX MASTERのサブメニューからASSIGN"MY OUT"を選択して、MORE MEに割り当てます。
- 4. MORE MEの制御画面を表示します。
- 5. 画面左のMEはASSING MEで選択した入力の信号レベル、画面右のBANDはASSIGN"MY OUT"で選択したAUX MASTER出力の信号レベルです。オレンジまたは青の帯を上下に動かして信号レベルを調整します。
- 6. 真ん中の黄色いフェーダーを上下に操作して、MEとBANDのミックスバランスを調整します。フェーダーを上にあげるとMEの音量が、下に下げるとBANDの音量が大きくなります。



ファームウェアのアップデート

本機のファームウェアのアップデートはUSBメモリー経由で行います。アップデートの手順は以下の通りです。

備考・ファームウェアのアップデート情報はSoundcraftのWebサイトに掲載されます。

・現在のファームウェアのバージョンは、設定ページのABOUTタブ(P.42参照)で確認できます。

- 1. SoundcraftのWebサイトから、Uil2であれば[uiupdate-k-[バージョン番号]-uil2.zip]、Uil6であれば[uiupdate-k-[バージョン番号]ui 16.zip」というzip形式のアップデート・ファイルをダウンロードします。
- 2. ダウンロードしたzipファイルを、解凍せずにそのまま空のUSBメモリーにコピーします。
- 3. 本機と端末をWi-Fiで接続し、端末で本機をコントロールできる状態にします。
- 4. 本機にUSBメモリーを接続します。どのUSB端子に接続しても構いません。読み取りが完了するまで少々お待ちください。
- 5. 読み取りが完了すると、アップデートするかどうかの確認メッセージが端末に表示されるので「Update」を選択してください。アップデートが開始 されます。
- 6. しばらくするとアップデートが正常に完了したことを知らせるメッセージが端末に表示されます。本機からUSBメモリーを外して、電源をOFFにし てください。
- 7. 電源をOFFにして10秒以上経過した後に、再び電源をONにします。すぐにONにすると起動に失敗する可能性があります。
- 8. 本機と端末を再びWi-Fiで接続し、端末で本機をコントロールできる状態にします。
- 9. ファームウェアのバージョンを確認します。バージョンが変更されていればアップデートは完了です。

工場出荷時の状態へのリセット

本機には、端末を内蔵のWi-Fiアクセスポイントに接続する際のパスワードとネットワーク設定を工場出荷時の状態へ戻す「ネットワーキングリセッ トレン、全ての設定を工場出荷時状態へ戻す「フルリセット」の2種類のリセットがあります。

ネットワーキングリセット

ネットワーキングリセットは、端末を内蔵のWi-Fiアクセスポイントに接続する際のパスワードを忘れてしまったりネットワークに接続できない場合に 行います。本機のRESETボタンを押しながら電源をONにして、RESETボタンをそのまま押し続けると、ネットワーキングリセットが実行されます。 実行中はWiFi LEDが点滅します。WiFi LEDが点灯に変わったらRESETボタンを離してください。

フルリセットは、ファームウェアを含む全ての設定を工場出荷時の状態に戻したい場合に行います。フルリセットの手順は以下の通りです。



- ・フルリセットを行うと、本機に対して実行したファームウェア・アップデートをはじめ、内部に保存されている全てのユーザー設定が失われます。フルリ セットを実行する前に、必要に応じて各種ユーザー設定をUSBメモリーに保存してください。
- 1. [fullreset.txt]という名前のtxt形式のテキストファイル(内容は不要)を作成し、空のUSBメモリーにコピーします。
- 2. 本機の電源がOFFになっている状態でUSBメモリーを接続します。どのUSB端子に接続しても構いません。
- 3. 本機のRESETボタンを押しながら電源をONにして、RESETボタンをそのまま押し続けると、フルリセットが実行されます。実行中はWiFi LED が点滅します。
- 4. しばらくするとWiFi LEDが点灯に変わります。本機からUSBメモリーを外して、本機の電源をOFFにしてください。
- 5. 電源をOFFにして15秒以上経過した後に、再び電源をONにします。すぐにONにすると起動に失敗する可能性があります。WiFi LEDが点滅か ら点灯に変わればフルリセットは完了です。



仕様

			Ui12	Ui16
入出力端子	マイク / ライン入力 (XLR と標準フォーン (3P) 対応の複合型端子)		4	8
	マイク / ライン入力 (XLR)		4	
	ステレオライン入力 (RCA)		1	
	MIX L/R ライン出力 (XLR/ 標準フォーン (3P))		各1	
	AUX ライン出力 (XLR)		2(ヘッドホン端子の切り替えで 2 系統増設可能)	4(ヘッドホン端子の切り替えで 2 系統増設可能)
	ヘッドホン (標準フォーン)		2	
	USB		3	4
	イーサネット (RJ45)		1	
	フットスイッチ (標準フォーン)		1	
バス	MIX L/R バス		各1	
	AUX / TZ		2(ヘッドホン端子の切り替えで 2 系統増設可能)	4(ヘッドホン端子の切り替えで 2 系統増設可能)
	FXバス		3	4
音響性能	周波数特性		20Hz \sim 20kHz(\pm 0.25dB)	
	THD		0.006%以下@ 1kHz(-20dBFS)	
	インピーダンス	マイク/ライン入力	10k Ω	
		マイク / ライン入力 (Hi-Z ON 時)	250k Ω	
		ライン出力	100 Ω	
	最大信号レベル	マイク / ライン入力	+20dBu	
		ライン出力	+23dBu	
	マイク等価入力ノイズ		-109dBu(22Hz~22kHz、アンウェイト)	
	ハイパスフィルター		20Hz ∼ 1kHz	
	パラメトリック EQ	高域	20Hz ~ 22kHz、± 20dB、Q=0.5 ~ 15	
		中高域	20Hz ~ 22kHz、± 20dB、Q=0.5 ~ 15	
		中低域	20Hz ~ 22kHz、± 20dB、Q=0.5 ~ 15	
		低域	20 Hz \sim 22 kHz、 \pm 20 dB、Q= 0.5 \sim 15	
AD-DA 変換			24bit、48kHz	
内部処理			32bit 浮動小数点演算	
レイテンシー			1.8ms(マイク / ライン入力~ライン出力)	
電源			DC18V(1.5A)、ACアダプター (AC100V、50/60Hz)	
消費電力			25W	
寸法 (W × H × D)			321 × 177 × 77(除突起部)	482 × 177 × 104(除突起部)
質量			2.3kg	3.6kg



この取扱説明書に記載されている商品名、会社名等は、その会社の登録商標または商標です。



http://www.hibino.co.jp/ E-mail: proaudiosales@hibino.co.jp ヒビノ株式会社 ヒビノプロオーディオセールス Div.

〒108-0075 東京都港区港南3-5-12 TEL: 03-5783-3110 FAX: 03-5783-3111

TEL: 011-640-6770 FAX: 011-640-6776

〒564-0051 大阪府吹田市豊津町18-8 TEL: 06-6339-3890 FAX: 06-6339-3891

札幌オフィス 〒063-0813 北海道札幌市西区琴似三条1-1-20 〒450-0003 愛知県名古屋市中村区名駅南3-4-26 TEL: 052-589-2712 FAX: 052-589-2719

福岡ブランチ 〒812-0041 福岡県福岡市博多区吉塚4-14-6 TEL: 092-611-5500 FAX: 092-611-5509